



発行日 2005年12月15日 発行人 福島伸悦
 編集責任者 浅井宣亮 編集担当 館盛寛行 編集委員 亀野 太田 大谷 菅原
 発行所 SOTO禅インターナショナル事務局 〒233-0012 神奈川県横浜市港南区上永谷5-1-3
 Tel. 045-843-8852 Fax. 045-843-8864 URL: <http://www.soto-zen.net/>
 郵便振替 00100-6-611195 SOTO禅インターナショナル

Vol.30



CONTENTS

●巻頭	打坐の縁に導かれて	ヨーロッパ国際布教総監 今村 源宗	1
●特集1	両大本山ワークショップ講演録 わたしはアメリカで坐禅をどう語ったか(2)	ヴァレー禅堂 前堂頭 藤田 一照	2
●特集2	「ゆめ観音」in 大船 アジアフェスティバル報告	S Z I 事務局長 亀野 哲也	5
●第19回世界宗教者会議・平和の祈りの集い		S Z I 事務局長 大谷 有為	8
●海外レポート	南アメリカ発 布教師の息吹が残る町	フリーライター 太田 宏人	12
	ヨーロッパ発 西山流ヨーロッパ禅開教	大満寺住職 西山 廣宣	14
	ハワイ発 モロカイ島カラウババ半島訪問記(3)	S Z I 事務局長 太田 賢孝	16
●両大本山ワークショップアンケート結果報告			18
●S Z I 通信	法具を贈ろう。仏法を伝える為に出来ること。		24
	寄付者・会費納入者名簿		24
	動静報告		24
	S Z I ホームページ運営中!		24

巻頭

打坐の縁に導かれて

ヨーロッパ国際布教総監 今村 源宗



両本山の別院を有しない、いわば日系人の教化を対象としないこの布教(伝道)地域に赴任してから、早いもので1年が過ぎます。この間、近年伝道教師として宗門に任命された20余名

の方々との協議会や研修会、あるいは道場を訪ね座臥を共にして、交誼を深め「指導役」ではなく「伝達役」として力めてまいりました。僧堂の教育に従事してきた生活が長い私を総監に指名した宗門の深慮を体して、任期を全うし、この「教区」の発展に聊かでも寄与できれば幸いです。

弟子丸初代総監のもたらした(只管打坐)の一事が今日もよく守られていることを尊く思います。ただ、彼が果たして種を蒔いたのか木を植えたのか、結果の行方はもう少し「時」を待たねばならないでしょう。木ならば、宗門の大木となって枝がどんな

に分かれても豊かに葉を繁らせ実を結びましょう。また、種ならば、広い欧州の大地で同じ品種の、しかし、各位の花を開かせることになるでしょう。

いずれにしても、私は、今は軽々な予断も偏見もなく、欧州の「打坐の友」と「打坐の縁」に随い、導かれて日々をつとめてゆきたいと思っています。

S Z I のみなさまには今後とも国の内外に関わらず、「打坐」の将来を信じ、実践と流布に寄与頂きますよう、僭越ながらお願い申し上げます。

(みなさまのご協力で『曹洞宗宗制』に定める絡子をたくさん頂戴いたしました。厚く御礼申し上げます。「引鑿」「香台掛け」「香炉」「袈裟袋」「笏」「香合」その他引き物などで頂いても使用せずしめてある「法衣」「法具」はなんでも海外では貴重品です。今後ともご収集のほどお願い致します。)

わたしはアメリカで坐禅をどう語ったか（2）

米国 パイオニアヴァレー禅堂 前堂頭 藤田一照



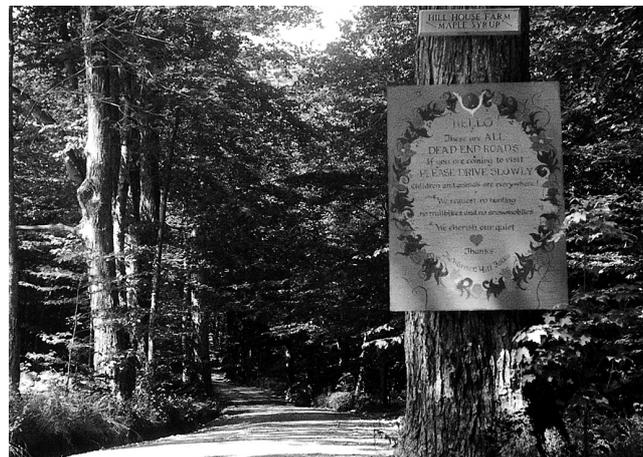
4月初旬のパイオニアヴァレー禅堂

・・・（承前）この「マジックアイ」という現象が興味深いのは、同じ一つの画像を普段の眼の使い方で見ると「マジックアイ」といわれる眼の使い方で見るとではまったく異なった視覚体験の世界が展開するという事です。「マジックアイ」においていったいどういうメカニズムで三次元の画像が立ち現れてくるのか、わたしは寡聞にして知りませんが、それは単なる「心の持ちよう」というような心理的な次元ではなく、眼の使い方という身体的・生理的な次元の違いから起きていることは確かなようです。外から見れば同じ坐禅をしているようでも普段の身心の使い方によって坐っている（坐禅が坐禅になっていない）のといわゆる「身心脱落」といわれる身心の状態で坐っている（坐禅が坐禅になっている）のとではまったく異なった体験世界が展開するという事を理解してもらうために、これはとても役に立つ実例の一つではないかと思うのです。

普段の身心の使い方というのは、まず頭で目標を設定し、その実現に向けて体を動かし、目標と行為の結果とを比較考量しながら徐々に両者を一致させるように意識的に努力するというやり方です。何をやるにしてもそこには「わたしが・体を・～のために・使う」という基本構造が隠れています。おおざっぱに言えば自分にとって好ましいものは手前に引き寄せ摂取するために使うか、あるいは自分にとって好ましくないものは向こうに押し出して排除するために使うか、そのどちらかです。これは生命が生

存するために不可欠のリアクションパターンなのですが、坐禅は一時的にせよそういう身心の使い方を根本的に切り替えることなのです。釈尊は「自分の見出した法は流れに逆らうものだ」と言ったそうです。われわれは自然のままにほうっておいたら誰に教わらなくても本能的にこういうリアクションパターン（＝流れ）に従って生きてしまいます。しかし坐禅修行というのはもともと「流れに逆らう」ものとして伝承されてきているのです。ですからわれわれとしては坐禅が自分の普段のありかたにとっては不自然・不可解に感じられるのも当然といえます。

さて、普段の身心の使い方からの切り替えと言いましたが、具体的にはどういうことなのでしょう？これについてまずはっきり言えるのは「～のため」というなんらかの目標を指さないということです。坐禅の場合ですと「悟り」、「スカッとした心境」、「悩みの解決」、「今よりましな自分」とかを往々にして目標として持ち込みがちですが、どれほど高尚な目標であっても一切のアテを坐禅に持ち込んではいけなさとされています（「作仏を図ること莫れ」）。参禅者たちにここを納得してもらおうのが非常に難しく、よく「それじゃあいったいなんのために坐っているのですか？目的無しに坐るなんてできませんよ」とよく質問（難詰？）されました。われわれは小さいときから「高い理想を持ってその実現に励め」と教えられてきましたから坐禅修行もそういう枠内でしか考えられないのです。「目標無しに努力する????」



禅堂への道



タサハラ禅センターでの講義風景

しかし、よく考えてみるとたとえば目標として立てられた「悟り」は実は未だ悟っていない凡夫のわたしが凡夫の頭で想像した悟りでしかないのです。ですからその悟りが本当の悟りかどうかまったく当てになりませんし、たいていの場合は凡夫性がうらがえた代物でしかないのです。たとえ目標に到達できたとしても元の木阿弥で凡夫という質になんの変容も起きていないし、前よりもっと念の入った凡夫（ましになったと思いがっている分だけ）に成り下がっているということだってあるのです。また目標というのはいまここに無いものだからこそ目標になり得ますから、目標を目指す、理想を追うというのはいわば自分をいまここではないところに運ぼう、持っていこうとすることです。そういう態度は身心全体に微妙な緊張として反映します。「のんびり坐ってなんかいられない。なにかやらなくちゃ！」というわけです。これは『普勸坐禅儀』にある「運転」とか「測量」に当たるもので、それは「止め・止め」なければならないと言われていることなのです。脚を組み、手を組み、口を閉じて背筋をまっすぐに立てて正身端坐する坐禅の姿勢というのはいまここを離れてどこかよそに向かおうという姿勢ではありません。どこか他所に行こう、逃げようとしたとたん崩れてしまうのが坐禅の姿勢というものなのです。それはどこまでも深くいまここに親しもうとする姿勢です。坐禅にあるのは未来へ向けて描かれた「目標・アテ」ではなく現在の深さに深まっていくという「方向性・ねらい」というべきです。それは、今ないものを求めるのではなく今あるものを深く味わうという態度への切り替えともいえるでしょう。

またマジックアイを引き合いに出しますが、今見えていないものを探すと普通の眼の使い方を止め、何かを見つけようとしなしい何も予期しない

で眼をリラックスさせた状態で絵の全体が見えるがままに見守り続けていることが大事だと言いました。坐禅のときもそれと同じように上に述べたような普段のリアクションパターン（現実を受け入れずそうではないどこか他所へ逃げ出そうとしたり自分の都合のいいように変えようとする傾向）を止め、身心をリラックスさせて刻々に展開している（無常している）内外の世界を善悪是非の判断をさしはさまず取捨選択せずにあるがままを受け入れ続けているのです。ですから眼だけではなくいわば全身心がマジックアイ状態になっている（それが身心脱落？）と言えるわけです。二次元の単調な繰り返しパターンの絵がマジックアイになったとたん突然あるメッセージをもった三次元の絵として立ち現れてくるようにわれわれが普段見慣れた世界（外部&内部）も坐禅したときにはそれとは異なった質を持った「坐の尽界」として体験されるはずなのです。それが起こらないとしたら坐禅が坐禅になっていない、マジックアイ状態になる条件にどこか不備があるということです。絵本のマジックアイですらなかなか容易に切り替えることができないのですから、全身心のマジックアイ化＝坐禅にはそれよりはるかに微妙で審細な工夫が要求されるということはいまでもありません。

坐禅においては普段のリアクションパターンが止んでいるということについて一つ述べておきたいことがあります。普段は快の経験があるとそれに「もっと欲しい、ずっとこうであって欲しい」という具合に愛着を高めていきますし、不快の経験があるとそれに「嫌だ、あっちへいけ、なくなれ」という具合に抵抗しようとしています。ところが釈尊が教えているのは数学公式にすると「楽しさ＝快÷愛着」、「苦しみ＝不快×抵抗」ということです。つまり快に対して愛着が大きければ大きいほど楽しさが減る、不快



摂心の後に



授戒式の一コマ

に対して抵抗が大きければ大きいほど苦しみが増すのです。もしこれが正しいとすると、われわれの普段のパターンは皮肉なことにわれわれの望みとは逆に苦しみを増し、楽しさを減らすように働いていることになります。坐禅においても当然快や不快の経験は生起してきますがそれに振り回されず坐禅を守り続けるということは実は快に対しては愛着、不快に対しては抵抗をもってリアクションを起こす回路の配線を結果的に変えていることになるのです。快や不快はそれとして感じつつもそれに愛着や抵抗を混入させない稽古＝現実をそのまま受容する態度の練成をそれとは知らずとも自ずとしているわけです。「坐禅は無所得無所悟 ただ坐るだけ」ということを言いますと功利主義的・実利主義的な傾向の強いアメリカの人たちはそれだけでそっぽを向いてしまいます。それでも何かあると感じて取り組む人もいますがけっきょくは何もわからないままやめちゃう人が多いのです。それに間違いはないし、そこをはずしては坐禅が何か他のものに変質してしまうのですが、なぜそうでなければならないのか、なぜそ

れが素晴らしいことなのか、どうしてやるべき値打ちのあることなのか、それがわれわれの人生においていったいどういう意味をもつのか…などを教条的にではなく彼らの知性に向かって説得的に語るなければ正しい坐禅は伝わっていかないのです。わたしはアメリカに行くことによって、ただ坐る坐禅のうちに含まれている無限の意味あいを現代の言葉を用いて汲み出していくというとても面白い課題を与えられたことを心から感謝しています。今まで述べてきたことはそのほんの一端ですが、これにはきりというのがありますから今後も自分なりに続けていくつもりです。

以上、坐禅とはどういうものなのか（坐禅のいわれ）という坐禅を語る上で第一の問題について、まとめませんが述べさせていただきました。次に坐禅を具体的に指導する時の問題について若干お話ししたいと思います。

わたしは坐相の正確さを大変大事にする伝統のなかで坐禅を学んできました。そこでは「正しい坐禅をすることは正しい坐禅の姿勢を骨組みと筋肉をもってねらい、これにすべてをまかせきっていくこと」だと教えられました。アメリカに行ってもそういう坐禅を教えようと思っていましたが、行くそうそう大きな壁にぶつかりました。まず、大半の人たちが持っている坐禅のイメージが精神統一とか無念無想をめざす「精神」修養的なものだったからです（日本でもそうかもしれませんが）。そこでは姿勢とはあくまでも二次的、三次的意味しか持たされず、要するに精神的なエクササイズをやりやすくするための入れ物と考えられているのです。もう一つは「いす文化」に生まれ育った彼らの多くが伝統的な坐禅の姿勢＝結跏趺坐には向かない身心をしていたということです。（続く）



止静中



経行中



天気もよく、多くの来場者により国際協力基金をたくさんいただくことができました。ご協力に心より感謝申し上げます。

また、来場者の方々は大変理解があり、気持ちよくお買い物をしていただきました。

末筆ではございますが、準備していただいた皆様に心よりのお礼を申し上げます。

来年も何卒よろしく願い申し上げます。

御招きいただきありがとうございます。

とても綺麗なお寺でびっくりしました。皆さんがとても親切にしてくださり、とても気持ちよい時間を過ごす事ができました。どうもありがとうございます。

また次回も踊らせていただきたいです。

観音様の前で踊れて大感激です。

寒い季節より暖かい季節のほうが踊りやすくてうれしいです。

本当にありがとうございます。特に観音様の懷で踊らせていただき、景色も素晴らしく、とてもよい経験になりました。今後もさらに精進したいと強く思いました。

観音様の前で踊り、天気もよく、とても気持ちよく踊らせていただき、感謝感謝です。

是非来年もよろしく願いいたします。

空が綺麗、気持ちのいい空気の中で踊る事ができて本当に嬉しかったです。できれば来年も参加したいと思います。

今日は観音様の前で心地よく踊ることができました。

いつものお稽古の成果、この場のお陰様で皆様にも見ていただき、ありがたく思いました。有難うございました。

ゆめ観音アジアフェスティバルに出演させて頂きまして誠に有難うございました。突然の出演申込に対しての暖かい配慮にいたく感動いたしました。

まだまだ未熟な私たちですが、これからも何卒よろしく願いいたします。

ゆめ観音様の下で歌ったこと、素晴らしい経験です。来年もよろしく願いいたします。

今日はこのような素晴らしいフェスティバルのステージで演奏させていただきまして誠に有難うございました。

私たちはバンドということで、機材が多く、ステージまで運ぶのにスタッフの皆様の力なくしてはスムーズに物事が運びませんでした。

また、音響さんにも極力演奏しやすいように配慮してくださり、気持ちよくステージを終えることができました。

私たちの目に見えないところでスタッフの皆様の配慮がたくさんあったことと思います。

本当に今日は暑い中御疲れ様でした。来年も機会あれば呼んでいただけたら嬉しく思います。

御天気にも恵まれ、1日大変気持ちよく過ごせました。昨年に続き二回目の出演・出店でしたが、改めて観音様の前で踊ることで新しい力が湧いてきました。有難うございました。

お店もたくさんのお客様に喜んでいただきましたので嬉しく思います。ゴミをそれぞれ持ち帰るやり方は良かったと思います。

昨日は地域の方々とのつながりもでき、有意義な一日でした。

お忙しい中、主人を駐車場まではこんでいただいたりと、個人的にも無理なお願いをきいていただき、ありがとうございました。

若いお坊さん方のてきぱきした働きぶりも見ていて気持ちよかったです。

来年もぜひお願いします。

楽しい一日をありがとうございました。

感動をありがとうございました

先日はゆめ観音アジアフェスティバルに呼んで頂きまして有難うございました。



第19回世界宗教者会議・平和の祈りの集い

S Z I 事務局員 大谷有為

去る2005年9月11日から13日までの3日間、フランスのリヨンで「第19回世界宗教者会議・平和の祈りの集い」が開催された。今回の大会は、私自身にとって1996年にイタリアのローマで開催された第10回大会、そして、翌年同じくイタリアのパドヴァで開催された第11回大会に続いて3回目の参加となる。

この大会は、1986年10月に世界の宗教者が、平和のために共に祈りを捧げるために、アッシジに集った「世界宗教者平和祈願集会」に端を発する。この集会を提唱されたのは、前ローマ教皇・故ヨハネ・パウロ2世であった。そして、このアッシジにおける平和祈願集会は、世界各国において諸宗教間の相互理解の出発点となり、新しくローマ教皇に選ばれたベネディクト16世も、故ヨハネ・パウロ2世の精神を継承され、他の宗教や文明との対話を積極的に進めると明言されている。

現在、この会議はイタリアに本部をおく聖エジディオ共同体主催のもと、年1回の開催で運営されている。参加者も、カトリック、プロテスタント、仏教をはじめとする各宗教団体高位聖職者、関係者、また政治界からも多くの高官と多彩な顔ぶれが集う。

会議を構成する主な要素は、パネルディスカッションと、各宗教にわかれての平和を祈る法要、そして、平和祈願の行進である。それらを盛大なオープニングセレモニーとファイナルセレモニーが囲む。

今回の会議のメインテーマは、フランス語標記で「LE COURAGE D'UN HUMANISME DE PAIX」（平和・新たなヒューマニズムへの勇氣）であった。パネルディスカッションは、そのメインテーマのもとで、様々なサブテーマを与えられ、テーマごとに会場をわけ、大会期間中同時進行で行われる。実際にどのようなサブテーマでパネルディスカッションが行われたのか、以下に、その24のサブテーマを列挙する。

- (1) 9/11テロ後の世界宗教
- (2) 世界の子供たち（戦争と平和）
- (3) 東と西（宗教と文化）
- (4) 平和に関する書物とその展望
- (5) 宗教とアフリカ
- (6) 平和の根源への祈り
- (7) レバノンの未来（21世紀）
- (8) カトリックとクリスチャン
- (9) 人間とはなにか？

- (10) ヨーロッパ（未来へのヴィジョン）
- (11) 津波のあと（新たな結束）
- (12) バイブル、宗教心、ヒューマニズム
- (13) 重大な罰と命の価値
- (14) 良心の自由と現在
- (15) アフリカの夢（AIDSのない社会）
- (16) 文明の共存
- (17) 20世紀の基督教の苦難
- (18) 日本（原爆投下から60年）
- (19) 非宗教的ヒューマニズムと宗教的ヒューマニズム
- (20) ヨハネ・パウロ2世の遺産（アッシジの精神）
- (21) ヨーロッパとアフリカは未来を分かち合えるか？
- (22) アウシュヴィッツから60年
（ユダヤ教徒とキリスト教徒）
- (23) イスラム教と基督教
（現在、そして未来への展望）
- (24) 国際化社会における秩序と団結

次に、実際のスケジュールにそって、印象に残ったスピーチ等とともに大会の流れを報告する。また、上記パネルの中で、実際に出席することができたいくつかのパネルについても内容を簡潔に記す。

1. オープニングセレモニー

フランス・リヨン市長Gerard Collomb氏は、開会の



Auditorium Maurice Ravel
（オープニングセレモニーの会場）



オープニングセレモニーでスピーチする Armando Emilio Guebuza モザンビーク大統領

言葉の中で、自分の宗教に固執することなく、他を聞く・他を知るという努力が最も重要であると述べ、宗教間対話の重要性を強調した。そして、モザンビークにおいて、内戦・紛争が減少し、平和になったことを例に挙げ、このことは逆に宗教間対話の重要性を証明しているのだと加えた。

これを受けたArmand Emilio Guebuzaモザンビーク大統領は、モザンビークでは様々な宗教と対話することにより、私たちの発展を妨げた暴力に終止符をうつことができたと答え、この世界宗教者会議に対して、お礼の言葉を述べた。さらに、対話には、固定観念と偏見を追放させる力がある。対話を通じて、私たちは共に生きる運命にあるのだということに気づくことができると述べた。

また、聖エジディオ共同体創設者のAndrea Riccardi氏は、平和の実現を目指し、共に生きることは文化であると述べた。そして、このリヨンの大会の目的は、ここで世界を結ぶ糸を織ることであると述べ、世界各地からの宗教者の代表が集まり、他の人の話を聞き、共に平和を祈ることに感謝の意を表した。

2. パネルディスカッション

(1) 9/11テロ後の世界宗教

このパネルでは、4年前の2001年のニューヨークでの同時多発テロ事件に焦点をあて、話し合いが行われた。パネリストは、パキスタンのカトリック司教、イタリアのユダヤ教協会会長、アメリカのイスラム教宗教学者、アメリカのカトリック枢機卿、イギリスの英国教会の枢機卿、そしてスペインのイスラム教指導者の6人であった。

アメリカのイスラム教宗教学者のMuhammad Fathi OSMAN師は、多くのイスラム教徒は武器を持ち替えて、話し合わないといけないと述べた。生きている人同士のコンタクトこそが宗教のテクノロジーであり、これが

なかったから9/11のテロの事件がおこってしまった。だが、このテロ事件により宗教の重要性を再認識した。すべての宗教は独自の歴史があり、それゆえ相違がある。しかし、宗教間対話による相互理解から、新たなる道が発見できるのであり、このことが一番重要なのだと強調した。

イタリアのユダヤ教協会会長Amos Luzzatto師は、悲観的な見方をすれば、今日の宗教は過去のイデオロギーに非常に似ていて、どうやって向き合うかということとはとても難しいと述べた。しかし、我々がここにいること（この大会に参加しているということ）は、とても積極的なことであり、また重要なことであり、パネリスト自身も他のパネリストから学んでいるのだと加えた。

イギリスの英国教会の枢機卿Rowan Williams師は、9/11後の対応は十分なものではなかったが、少なくともこの同時多発テロ事件からは多くのことを学ぶことができたと述べ、さらに、効果的な宗教間対話は未来を意味し、互いに話すこと、理解すること、感謝の気持ちをもって向き合うことが大切であると述べた。

最後の質疑応答では、会場から、対話のベースは文化だと思うが、どうやってこの対話を異なる宗教にまで広げることができるのかという質問があった。この質問に対し、アメリカの在ローマ国連大使Tony P. Hall師は、まず、お互いに勉強すること、内面を知ることである。それから信用が生じ、そして同意ができるのであると答えた。

(2) 津波のあと（新たなる結束）

このパネルでは、2004年12月に発生し、史上最悪の津波被害をもたらした、世界を揺るがしたスマトラ沖地震・津波の被害に対しての各国の実際の対応などについて話し合われた。

インドの最高裁判所で弁護士をつとめるSora Khan氏は、まず、津波で亡くなった人々のためへの黙祷を会場にいる参加者全員に呼びかけた。そして、被害、災



Palais des Congrès
(パネルディスカッションの会場)

害を受けた国の政府が、対応が出来なかったということはその政府自体に問題があると切り出し、対応の遅れの原因は、施政、実際の行動を起こす前に、結果や最終的な評価のことを考えてしまうことにありと指摘した。また、現在の経済至上主義も、津波被害者に手をさしのべることを遅らせていると加えた。

さらに、ボンベイでの大きな被害について言及し、災害対策が遅れた要因のひとつに気象条件などを考えずに、ただ単に流行・ブームのつた多くの建築がなされたことを挙げた。現在も、責任の所在ばかりが議論されているが、それよりも大切なことは、私たち自身の日常生活であり、これから私たちがどう対応していかなければいけないかということであると訴えた。

また、この災害で亡くなった人の数は14万人以上にもおぼり、特にスリランカでは約3万人の死者のうち、約7割が児童だったということがクローズアップされ、人間の生きる権利についても様々な議論がなされた。

(3) 日本（原爆投下から60年）

このパネルでは、今年2005年に広島・長崎への原爆投下から60年を迎え、日本の各宗教は平和に対してどのような活動を行ったか、また、平和の実現に向けてこれからどのような行動をしていくかということについて話し合いがなされた。

立正佼成会の山野井克典理事長は、宗教者の相互理解、そして、宗教者が共に力を出し合い、祈り、行動することが必要であると強調し、また、家庭の中での平和が世界平和につながると述べた。さらに、平和活動の具体例として、「一食平和活動」を挙げた。これは、立正佼成会の会員が、飢餓や貧困など困難な状況に苦しむ人々に思いをはせ、月に数回の食事を抜き、その食費分を「立正佼成会一食平和基金」に献じるというものである。現在、一般市民の方々にも、実践を呼びかけ、毎週金曜日の昼食を抜き、その食費分を献金してもらうという運動を展開している。



「津波のあと」パネル会場内の様子



仏教徒の平和の祈りの法要

神社本庁の矢田部正巳総長も、各宗教が力を合わせていきたいと同様に述べ、これからも多種多様化していく人類の要求には、節度をもって対処していくことが肝要であると加えた。

また、このパネルで、曹洞宗が行った「平和のための地蔵」プロジェクトを紹介させていただくことができた。これは、一人のアメリカ人の曹洞宗の僧侶が、中心になって行った活動で、広島と長崎への原爆投下60周年にあたる2005年8月に、27万体の地蔵菩薩の像を両市にお届けし、展示、寄贈することを希望するというものであった。この活動は、極めて仏教的で、かつ、実践的な平和運動であるといえ、パネルの参加者全員に、個々のさらなる平和への行動・活動への良い具体例として、強く訴えかけられることができたと思う。

最後に、このパネルのチェアマンを務めた聖エジディオ共同体のAgostino Giovagnoli教授は、この15年間、日本の各宗教を見てきたが、各宗教とも以前に比べて非常に積極的になってきており、互いに協力してきているという印象を受ける。各宗教者も、日本における宗教の役割、また、社会における宗教の意味を理解し、深い次元で考慮している、とまとめた。

3. 平和の祈りの法要

各宗教に別れての平和祈願の法要が、リヨン旧市街の各地で行われた。仏教の法要で導師をおつとめになられたのは、天台宗大僧正半田孝淳門主であった。

4. 平和の祈りの行進

リヨン旧市街でも一番の観光名所となっているフルヴィエールの丘の上のフルヴィエール大聖堂を出発し、ファイナルセレモニーの会場でもある古代ローマ劇場までを、カトリックのリヨン大司教Philippe Barbarin師を先頭に、大会に参加した宗教者全員で行進した。

5. ファイナルセレモニー

この大会最後の行事であるファイナルセレモニーでは、各宗教、各宗派の代表が世界平和の実現にむけて、「平和宣言」を発表し、キャンドルの点火で幕を閉じた。

「平和宣言」の内容は以下のようなものである。

～ここリヨンでは、祈りの精神の光のもとで、フランクな対話が行われました。世界の宗教の代表者たちは現代社会のヒューマニストと対話しました。各宗教・各文明の違いがはっきりしました。世界はグローバル化されているにもかかわらず、全て同じになったわけではないのです。しかし、ひとつの未来を分かち合っていることが明確になりました。民族や、人々の間に平和を築くために必要な新たなヒューマニズムを作るために、勇気を奮い起こし、互いに協力しあうときがきました。我々の目的は、互いの主張というよりも、共存するための文化を創ることです。対話の術とは、この共存文化を創るために歩まなくてはならない、長い道のりなのです。(抜粋)～

今年の大会は、大会初日が9月11日であった。その日の朝にテレビのニュースを見ると、4年前のあの忌まわしいニューヨークでの同時多発テロ事件の映像が眼に飛び込んできた。それは、世界中の人々が忘れることが出来ない2001年9月11日当日の実際の映像をダイジェストで克明に伝えるものであった。

今大会でのパネルのテーマの中でも、9/11のテロの事件に関するパネルが一番大きい会場で行われ、多くの聴衆を集めていた。しかし、そのパネルの中で、ひとりの宗教者は、私たちは9/11のテロの事件の懐古のために、ここに集まったのではないと強調した。

なぜなら、あのテロ事件後も、スマトラ沖地震・津波、ロンドンでの地下鉄テロ事件、新潟県中越大地震、ス

ペインでの列車テロ爆破事件、ハリケーン・カトリーナによるニューオーリンズの洪水と、悲劇、災害は世界各地でとどまることなく頻発しており、被災者・被災地への支援、テロ対策、そして、災害後の対応に、世界中の人々が毎日のように追われているのが現状だからである。

この世界宗教者会議で、話し合われたことを至極簡単な言葉でまとめるとするならば、宗教間対話の重要性、そして、相互理解の必要性という2つのことになる。

確かに、宗教とは個人に語りかけるものであり、人の心に話すこと、自分の心からはじめることは世界の人を救うことが出来る、といえるだろう。

しかし、いくら宗教が世界を救えるからといって、ここで宗教間対話と相互理解という2つのことを唱え、訴えても、それだけで終わってしまったら、今後も、テロ事件がゼロになることはないであろうし、また、自然災害の被災地のほとんどの方が早急な対応によって無事に救われた、というようなニュースが災害の度に流れるということにはならないだろう。

テロ事件に代表される現代社会の諸問題は、どれひとつをとっても政治的レベルでの問題解決が必要不可欠であることはいうまでもない。日本では、政教分離を唱え、特に既成宗教教団は表面的には政治面に関してはなにも語らない姿勢を固持している。が、しかし、宗教が現代の諸問題に対して積極的に関わっていく以上は、政治に対してより一層の問題提起をしていくべきであろう。だからこそ、政治と宗教はお互いに自立し、矛盾することなく共存していく道を模索していかなければならないと思う。

これに加えて、今、我々宗教者に託される大きな課題は、歴史も文化背景も異なる各宗教の貴重な要素をどのように使って、どのようにリンクさせていけばいいのか、実際に現代社会の諸問題の解決と、世界平和を実現すべく、その行動に通じるさらなる方法論を具体的に示すことなのである。



平和の祈りの行進



ファイナルセレモニーでのキャンドル点火

… 海外レポート 南アメリカ発 …

ブラジル国パラナ州ローランジャ市洞光山佛心寺の創立45周年記念法要

布教師の息吹を残す町

フリーライター 太田 宏 人



法要後記念写真

伯国パラナ州ローランジャ市の曹洞宗寺院であるローランジャ＝洞林山佛心寺（Rua Paranaguá 325）は、今年創立45周年を迎えた。これを記念し、9月4日には45周年記念慶祝法要（導師：采川道昭・曹洞宗南アメリカ国際布教総監）が厳修された。この他、開山歴住諷経（同：三好晃一・同前総監）、檀信徒総回向（同：黒澤慈典・同寺駐在国際布教師）、同寺観音講主催の昼餐会もあり、盛況だった。

日本からは記念参拝団（団長：茨木兆輝師＝佐世保市・西蓮寺住職＝）が同地を訪れた。参拝団は8月29日に成田発、南米別院拝登や、アマゾン河、イグアスの滝、リオ・デ・ジャネイロ観光など盛りだくさんのスケジュールをこなしながら、9月9日に成田着という強行スケジュールだった。参拝団を組織し、ツアーの実現に尽力したのは、同寺の実質的な創立者で二世中興開山の故・吉田道彦師の夫人である吉田ふく子さん（仙台市・洞林寺寺族）だった。

筆者は参拝団とは別スケジュールで、9月3日にローランジャに入り、同5日まで同市に滞在し、法要等を取材した。以下は、その報告である。

式典前夜／9月3日

南アメリカ国際布教総監部のあるサンパウロからのグループや、記念参拝団、筆者等の個人参加者らが、ローランジャ市に程近いロンドリーナ空港にそれぞれ空路、到着した。

チャーターバスやお寺のメンバーの乗用車などに分乗し、陸路ローランジャへ。以前、沿道は一面の畑だったそうだが、今では住居がひしめく。この地域に日本人がはじめて入植した1930年代当初、ローランジャには数軒

しか家はなかったという。

その後、ドイツ人が中心となって街づくりが進み、木造建築の多い、美しい町となっている。現在の同市の人口は約5万人。日系人はマイノリティーである。

ローランジャ佛心寺では、寺務所（庫裏）に起居する黒澤師の懇ろな歓迎を受ける。式典実現に向けて、黒澤師の尽力は並々ならないものであった。

一同が揃ったところで拝登諷経。寺は、白い壁に、この地方特有の赤い瓦屋根のコントラストが美しい寺院である。内観は、壮観である。ご本尊ならびに両祖尊像は、現地で彫られたものだという。そして、木材で作られた天井板が格子状の美しさを見せている。全体に温かい雰囲気に包まれている。

寺の周辺は、現在は住宅地であるが、創建当時、人家はまばらだったという。

夕食までの間、佛心寺の総代である片木さんの案内で、日系人会館へ。佛心寺の観音講のメンバーを中心とする大勢の婦人が翌日の料理の仕込みに精を出していた。その後、片木さんのお宅で、ブラジルのカフェを頂きながら現地の日系人の状況について、レクチャーを受ける。片木さんは自宅で日本語を教えているが、年々受講生が減っているという。寺の役員は年配者が多く、後継者育成という課題は、ここでもあるようだった。

夕食は、洞林寺並びに随喜僧侶交流夕食会が盛況裡に行われた。素朴な料理がとても美味だった。

式典当日／9月4日

当日は檀信徒のほか、縁故者らを中心とする記念参拝団、同宗派遣の三浦信英特派布教師ら日本からの参加者、前夜にサンパウロなどから到着したソーザ孤圓師（ブラジルでは「モンジャ・コエン」と呼ばれ、尊敬され



観音講



焼香風景

ている)らのグループなど計約80名が随喜し、堂内は立錐の余地のない状態だった。朝夕は冷え込み、毎日夕方になると現地でも珍しいという、雹(かなり大粒のもの)が叩きつける気候であったが、お寺のなかは、佳節を迎える熱気に満ちた。

日本語が分かるメンバーのほうが多いようだったが、要所ではポルトガル語の通訳がつき、聴衆の理解を助けた。

なお、同寺で参禅するブラジル人(いわゆる非日系人)には当然ながら、CAMINHO ZEN(ZEN FRIENDS ポルトガル語版)のようなポルトガル語の資料が歓迎されるが、寺の役員等に聞いたところ、日本語の分かるメンバーにとっては、日本語の教化資料のほうが「読みやすい」ということだった。

式典の当日は三浦信英師による法話があり、自分を磨くためには、「よき友」に出会うことや「気遣い」の大切さ等を説いた。2人の小学生を伴い参列していた40代の女性は、「正しい言葉だったと思う。すばらしい内容だった」と述べていた。ふく子さんは「オブリガード(有難う)仏心！」と絶句、同寺が割れんばかりの拍手を浴びた。

また、有田恵宗宗務総長の祝辞(代読:小笠原隆元・駒澤大学名誉教授)のほか、采川総監および参拝団々長の茨木師の挨拶もあり、それぞれ仏心寺護持会へ深謝。吉田師の竹馬の友である茨木師は、児童教育に異彩を発揮した吉田師を称え、日系移民と吉田氏によって建立された仏心寺を実際に目にし、感に耐えない様子。そして、寺院建設に奔走した吉田師の行動を「魂の祈りであった」と思いを馳せた。

黒澤師は挨拶のなかで当日の盛況ぶりに感謝しつつ、「吉田道彦大和尚に負けないよう精進する」と抱負を述べた。

現地の新聞はポルトガル語2紙、日本語1紙も取材に訪れ、その様子を報道した。

式典後は、佛心寺会館にて昼食会。手作りのこんにゃくの煮付け、てんぷら、寿司など、ご馳走が並んだ。その後、一部有志がローランジャ農業センターを見学。古い移民小屋も保存されており、寺の創建当時、吉田師がパラナ州全土を苦勞して回った往時を忍ばせた。

夕方には佛心寺45周年記念晩餐会が開かれ、こちら

もブラジル式に自分で食べたいだけ盛り付けるというスタイルで、心のこもった素朴な味わいだった。

日系の参加者らの声を聞くと、平成16年より黒澤師が駐在するようになったことが「何より嬉しい」とのことだった。冗談ではなく「(黒澤師に)ここで早く結婚して欲しい」と希望するメンバーも多かった。

式典については、自分たちの代に、こういった規模の大きな行事ができたことへの驚きと喜びなどを口にしていった。

曹洞宗の海外寺院の多くが、檀信徒である日系離れと将来の先細りとの対処を余儀されるなか、佛心寺を創建し、これまで守り続けてきた日系人たちは、黒澤師という情熱を持つ若き逸材を得て、ますます元気である。その要因には、洞林寺をはじめとする日本側"サポーター"の大きな存在が挙げられるだろう。

式典翌日／9月5日

この日、イグアスの滝へ向かう日本からの参拝団は、早朝の4時過ぎに拝登(周囲はまだ闇夜)。その後、黒澤師等の見送りを受けてローランジャをあとにした。

5日から9日までは、同寺にて記念撰心が行われた。こちらは日系ではないブラジル人のメンバーが多い。北米および南米の各総監部の役僧が黙々と中食の用意をしている姿が印象的だった。

この日、筆者は佛心寺のメンバーに古い写真を見せてもらいながら、昔のことなどの聞き取りを行った。メンバーの方たちは、佛心寺への愛着を異口同音で語っており、やはり寺が「心のふるさと」として機能しているということ、実感した。というのも、吉田師とふく子さんはともに児童教育の専門家、佛心寺で幼稚園を開いていた。幼稚園というものは、そこで学んだ子どもたちのみならず、あどけないわが子の成長した舞台として、親たちも少なからぬ思い出を持つものだ。

そして、日系人にとっては、佛心寺が「親たちのための祭祀の場」として存続してきたという一面も見逃せない。

今後も、日系人および坐禅で集まるブラジルの人々たちが一致団結すれば、佛心寺の将来は明るいと確信する。



昼食の準備

… 海外レポート ヨーロッパ発 …

西山流ヨーロッパの禅開教

大満寺住職 西山 廣宣

1 ヨーロッパ禅指導のきっかけ

1996年2月より2004年8月まで、毎年2～3回の撰心が続けてまいりました。合計20回程度の撰心が続けたこととなります。そもそも私とヨーロッパとの出会いは次のようなものでした。

1995年の春頃だったと思います。スイスのベルン在住のガットハート・デウテリウムという人物から手紙を受け取りました。翌年2月の撰心をしたいと申し出でした。そして、ベルン道場の指導をして欲しいとのことでした。私は、すぐに返信を出して、次のようなことを申し上げました。ベルンの近くの大都市・チューリッヒにミッシェル・ブーベという故弟子丸老師の7人の弟子の一人がいるので、ブーベ師の指導を受けてはと問い合わせました。そして次のようなことがわかったのです。ベルン道場にはロルフ・ソームという人物がいて、すでにロルフ師とミッシェル師とは種々の事柄で対立しており難しいとのことでした。そこで翌年、1996年2月にはじめてスイスのベルンを訪問し、さっそくチューリッヒの道場を訪問しましたが、双方の人々の間に激しい感情的対立があり、ミッシェル師にベルン道場の指導は全く難しいことを知りました。そのことにより私がベルン道場の指導をすることになりました。なお、ミッシェル・ブーベ師は後に、Association Zen International(AZID)の会長・ホーロン・ラッシュェ師の次に会長になった方で、チューリッヒを中心に強い教線を拡大していた方です。

その頃、ベルン道場はガットハート師宅から車で30分のところに20畳ぐらいの床の道場と男女の更衣室、トイレを借りて道場にしておりました。ほぼ毎夕6時半から9時半ぐらいまで坐禅と読経の修行をしておりました。4～5人ぐらいは坐禅にも良くなれており、特に弟子丸



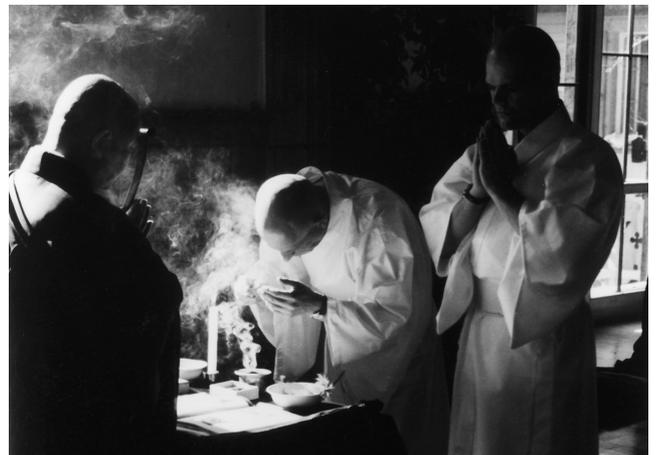
第一回撰心 ベルン道場

師のもとで、すでに数年の修行をしていたルネ・ハネという人物がその道場の指導権を握る野心を持っておりました。当時、ピエール・ジェラルドという人物がベルン道場に私に来るといふ情報を知っていて彼はぜひジュネーブに来ることを望んでおりました。

彼はジュネーブに道場を開き、弟子丸師のグループから分かれておりました。私がジュネーブ行きをルネ・ハネ師に話すと彼も同行する希望を言い出したので、一緒に行く決心をしました。ルネ・ハネ師はジュネーブへの行き帰りの間中、ベルン道場の指導者は彼であることを私の口から言ってくれと強く望んでおりました。私は内容がまだ充分理解していないので、今は何もいえないと彼に言いました。そして驚いたことに、次の日彼がベルン道場に貸していた鐘や木魚等、全部自分の家に持ち帰り、再びベルン道場には来ないとのことでした。彼は



ベルン道場入口



得度式

精神科医であり、ベルンに診療所を持ち、その後も会員としての会費を支払い続け、陰からベルン道場の支援を続けてくれるそのような人物でした。その後、大鐘、小鐘、木魚、警策等を日本から送り、修行ができるように用意をいたしました。ルネ・ハネ師が抜けた後、ガット・ハート師とその妻・武藤直美さん、ロルフ・ソーム氏、ミリアム氏等が中心になって、ベルン道場は運営されることになりました。

2 第1回の摂心のスケジュール

1996年2月9日から11日までの3泊4日にわたる第1回の摂心が計画されました。参加者は19名ほどでした。その日程は下記の通りです。

	2月9日(木)	2月10日(金)	2月11日(土)	2月12日(日)
6:00			振鈴	振鈴
6:30		振鈴	坐禅	坐禅
7:00		坐禅	経行	経行
		経行	坐禅	坐禅
		坐禅	朝課	朝課
8:00		朝課	小食(玄米)	小食(玄米)
8:30		小食(玄米)	作務	作務
9:00		作務	休憩	休憩
10:00		休憩	坐禅	坐禅
10:30		坐禅	提唱	提唱
		経行		得度式
		坐禅		
		経行		
12:00		中食(玄米)	中食(玄米)	
13:00		作務	作務	中食(玄米)
14:00		休憩	休憩	作務
15:30		坐禅	坐禅	反省会
16:30		提唱	問答	解散
17:30		晩課	晩課	
18:00	受付	作務	作務/独参	
19:00	オリエンテーション	薬石(玄米)	薬石(玄米)	
20:30		夜坐	夜坐	
21:00	薬石			
22:00		開枕	開枕	
23:00	開枕			



応量器を使つての食事

3 ベルン大学の特別摂心

1997年6月30日より7月4日にわたり、ベルン大学の宗教学部主催の特別摂心が行なわれました。この摂心はベルン道場が共催し、実質的には準備その他、実行はベルン道場の人々によって行なわれ、私がメイン講師として講座、並びに坐禅指導に当たりました。一週間の摂心を通して参加したものには単位を認めるというものでした。大学側からも3名の先生方の参加を見ました。特に摂心中は言うまでもなく、礼拝は修行の中でも、道元禅師の中心をなしているものと教え、「衆生無辺誓願度・・・仏道無上誓願成」として礼拝を三度繰り返すのですが、参加者の中に一人だけ礼拝をしない学生がいました。しかし、最終日になって、驚くことに礼拝をするではありませんか。この特別摂心では礼拝はもとより、道元禅師のこと、『正法眼蔵』の中から中心的な数巻を取り上げました。当然のことながら瑩山禅師や『伝光録』のことなども又中心的テーマであったわけです。



4 これからの展望は

ヨーロッパやアメリカ、そして日本を含めて32名の得度授与者と8名の伝法授与者が現在おります。とりわけ、法嚴衆衛(ディトリム・ガットハート)師、慈顕覚道(ピエール・ジェラルド)師はそれぞれ、スイスのベルンとジュネーブの責任者、そしてドイツの石光明仙(ヤコブ・シミオッティ)師はベルリンとハイデルベルグの責任者として成長しております。来年の特別摂心(1ヶ月)を終えれば伝道教師の資格も取れるものと思われれます。もちろん、イタリア・ミラノのヨーロッパ総監教師を通して奥書進達せねばと思っております。そして、小生は、アメリカのサンフランシスコより北へ車で3時間ほどのメンドシーノという田舎の山の中に空明堂という寺院の建設に取りかかる予定です。今年、9月28日から10月2日まで摂心を行ない、約16名の参加者がありました。今まではアメリカにあまり縁がなかったのですが、これからこのご縁の種子が拡がっていくような気が致します。

モロカイ島カラウパパ半島訪問記（3）

S Z I 事務局員 太田 賢 孝



日系人協会（年代不明）



旧日本人協会（現在）

ここは、アメリカ合衆国ハワイ州のモロカイ島カラウパパ半島。19～20世紀、ハンセン病の強制隔離政策のもとで強制的に連行されてきた多くの患者が、海と絶壁によって隔離されたこの半島で生涯を過ごしていました。この記事は、平成16年9月6日、オアフ島からの日帰り訪問をした際の訪問記（第3回・最終回）です。

■ カラウパパ半島の日系人墓地

日系人協会だったというブックストアを後にした私たちは、リチャード氏の勧めに従って、日系人墓地まで連れて行ってもらいました。ゆっくりと、けれど騒音の激しいスクールバスで赴いたのは、午前中、飛行機で到着した私たちがスクールバスに乗っている時に車窓から眺めた、半島西海岸の無数の墓地群の一部でした。

これらの墓地は、カトリック信者・プロテスタント信者・各国の入植者などの宗教ごとにまとめられており、リチャード氏の「ここが日系人墓地だ」という案内とともにバスが止められ、私たちはバスを降りました。リチャード氏は療養施設で包帯の交換があるとのことで、迎えの時間を約束だけすると、バスと共になくなってしまいました。

豊かに降りそそぐ暖かな太陽の光を全身に受け、すぐ傍から聞こえてくる太平洋の波の音。そこに、建立されて以来、一切の存在感を故郷に主張せず、この地に亡くなった方の存在を刻み続ける墓石群。

日系人の墓石は、今日の私たちが最も強くイメージする和型のものでありました。そして、その表面に刻まれている文字も、漢字がそのままに、彫り込まれていました。

このまま、ただ立ちつくすだけになりそうな感慨を覚えながらも、私たちは洋服の上に改良衣をはおるハワイアンスタイルで一座の法供養を捧げ、眼前に埋葬されている人々・日系移民・ハンセン病に罹患した人々に回

向しました。

■ 45基の墓石が語るもの

故郷に向かって何も語らず、法供養の後、私たちは、眼の前に佇む墓石一つ一つに刻まれた文字を読み上げ、確認していきました。

そしてこれらの墓石は、大正元年(1912)から昭和10年(1935)までの24年間に亡くなった方の45基に及ぶ墓石であることが確認できました。その後のリチャード氏の話によると、大正以前に亡くなった方の墓石は、カラウオ旧居住区付近にあり、昭和10年以降に亡くなった方の墓石は、カラウパパ半島を離れて、崖の上に建てられているそうです。

いずれの墓石も、今日の私たちに馴染みのある形をしてはいますが、ハワイの日系人が標準としている「家族墓」ではなく、「個人墓」でありました。移民として家族単位でハワイに来たのに、家族墓に入ることを許されなかった無念さも感じ取れます。

また、墓石表面に刻まれているのは、日本の出身地・個人名・死亡日であるものがほとんどで、仏名が彫られているものもありましたが、戒名・洗礼名が刻まれているものはありませんでした。神仏への切なる信仰心は持っていますが、戒名を受ける機会がなかったのではないかと思われます。

調査結果をこの場で公表する事は控えますが、現地でも判読することが出来た出身県のみ、統計的に記させていただきます。

広島県	11	山口県	7
熊本県	7	福島県	2
群馬県	2	山形県	2
宮城県	1	新潟県	1

福岡県	1	沖縄県	1
判読不能	5	刻字無し	3
墓石損壊	2		

出身地が判読できない墓石が5つありました。これは、然るべき方が然るべき方法を用いれば、判読されるかも知れませんが、今回はそれが出来なかったという意味です。

また、墓石自体が大きく損壊しており、瓦礫化した墓石がまとめられているのみのものも2基ありました。常に潮風を受け続け、穏やかではない天候が続く土地柄であるため、墓石の風化は、非常なスピードで進んでいます。今後も、このような墓石は増えていくことでしょう。

■ マハロ！カラウパ半島

日系人墓地で1時間ほど過ごした後、リチャード氏の運転するバスで飛行場に戻りました。言葉を尽くして感謝の気持ちを言うには余りに貧困な私の語彙。固く手を握り締め合ってお別れです。「また会えるだろうか…」と思いつつ、バスを見送りました。

感傷に浸りつつも帰りのフライトまでは、あと3時間…。どう過ごそうかと途方に暮れながら、滑走路の向こうに広がる太平洋を眺めていたら、無性に泳ぎたくなってきました。せっかく常夏のハワイに来たのに、水着に着替えて海で泳ぐチャンスは、今回の研修旅行では全くありません。よし！

海岸からずっと続く浅いタイドプールは、ジャバジャバ泳ぐには浅すぎます。むしろ、日光を浴びて暖くなった海水につかって岩の上に両手を広げれば、さながら天然温泉です。遠く眺めると、ある一線から海が青黒くなっています。あそこから先は、急に深くなっているのでしょうか、泳ぎに行く勇気はありませんでした。

さて、そんな海水浴を終えて待合室でノンビリ過ごしていたら、バイクに乗ったおじさんがやって来て「滑走路の向こうに行ったか？滑走路を歩いたら罰金\$1000だよ。」と。「(°_°;)エエッ？」滑走路を横切って、しかも、カラウパの海で泳いだ事は、とても言えない最高の思い出となりました。



墓前にて

■ これからも

今回の半島訪問の目的は、日本のハンセン病政策に大いに影響を与えたハワイ王朝の悲しみの現場を見るところでした。

そして念願叶って現地に足を踏み入れ、改めてハワイで起きた悲しみ、隔離政策の過ちを、予想以上の驚きを持って目の当たりにしました。日系移民として故郷を離れた人たちの希望と落胆も想像に難くありません。また、風化に向かいつつある45基の墓石に対峙して、危機感も募らせました。無策のままでは、これらの墓石は、完全に瓦礫と化すでしょう。

ハンセン病という病に、多くの人が苦しめられました。そして、不完全な治療による後遺症や、病気に対する間違った理解・差別が、更にその苦しみを拡大していきました。今日では治療方法が確立され、病を克服することが出来るようになりましたが、人間だけは、同じ過ちを繰り返しがちです。

私たちのハンセン病に対する誤った理解・偏見が永遠に解消されることを願いつつ、今回のレポートを終えたいと思います。3回に渡ってレポートさせていただき、有り難うございます。



花を供える人は…



後方にはカラウパの海



倒壊した墓石

両大本山ワークショップアンケート結果報告

平成17年6月27日・28日に両大本山で開催いたしましたワークショップ（講師・藤田一照師）に参加された安居僧のアンケート結果です。
ワークショップの内容については、会報29号、30号、31号（予定）を参照ください。

設問1:この講演はどこで知りましたか (上段永平寺・下段總持寺)			
SZ1会報を見て	人に聞いて	知らずに来た	その他
設問2:今日の講演は?			
大変興味深かった	興味沸いた	興味が沸かなかつた	関心が無い
設問3:国際布教はあなたにとって…			
是非国際布教師として海外に出たい	機会があれば	興味はある	全く興味が無い

ワークショップの感想

- 海外で現地の人が禅に対してどのような関心を持っているかよく分かった
- 海外での活動に関心を持っていたが、現在の僧侶で活躍できる人は限られていると思った
- 海外で布教活動を行っている人の話を聞くのが初めてだったので興味深く聞かせていただいた。様々な苦労があると思うが方の抜けたないような話で、こちらもかしこまらずに聞けよかった。
- 海外布教は少し興味があったが、実際ワークショップを通して話を聞いて勉強になった
- 国際布教についてどのようなものかを聞いて貴重な時間になりました。正直な話、禅とはどのようなものかを説明できないので自分には無理かもしれないと思っていましたが海外の人と話す事によってわかる事もあるかもしれないと聞き、海外布教を試みたいと思いました。
- 現在海外でも禅が行われていますが、その一端に触れられる事ができ、大変興味深く楽しく聞かせていただきました
- 西洋にはない東洋の精神文化を広く普及させるためには、日本人の考えで相手に語っては理解が浅くなってしまいますので、マジックアイ等の事例を用いて向こうの人にも理解しやすい方法を試行錯誤しているのが興味深かった。
- 大変新鮮なお話でした。米国での禅の取組みなど、いままで考えた事もなかったので大変ためになりました。
- 人に伝えるということの難しさや伝える側であっても多くのことを学ばせていただいたりする事を改めて感じました。また、教える相手によって教え方を考えながら参禅者の禅を深めていくように布教することに関心を持ちました。
- 自分が知らない世界の話なのでとても興味深かった。機会があれば是非現場に触れたい。
- 布教について興味が広がりました。また、坐禅に対しての知識も広がりました。
- 貴重な体験をなさった方へのお話を聞く事が出来て大変楽しく時間を過ごさせていただきました。また、このような機会があれば是非参加させていただきたいです。
- 私自身、マウイの寺に短期間手伝いで行ってだったので海外のことについて多少は理解していましたが、今回の話を聞いてとても勉強になりました。これから先、もっと触れる事ができるのならもっとも自分の目で見てみたいです。日本人との仏教に関する考え方が違うのだと驚きました。
- 語るに及ばず、まず行ぜよ。というのが永平寺で習う最初のことでした。今思えばそれは、先ず己の我見を砕くに当たり必要な事であるが、対して語り合うということを重視した場合どのような仏道が見えるのか興味が沸きました。

- 文化も性格も違う外国での布教活動の内容は、学ばせてもらえるところがあった。
- 自分は苦小牧の国際文化学部出身なのでこういう海外布教活動は凄く興味深かった。確かに我々は本山で本場の坐禅をしているが、海外の、まったく文化の違う人が坐禅、禅に興味を持っている事は感動すべき事だと思った。日本の道元禅をもっと多くの人に知ってほしい。それ以上に自分も勉強しなくては。
- 今まで坐禅について考えた事がなかったが、坐禅のことが少し近くなった気がする
- 海外の仏教に興味を沸いた
- 何も知らなかったので、少し興味を沸いた
- 日本以外の人が宗教における疑問についてストレートに聞いてくるので、その点に関して参考になる部分が多数ありました。
- 私の法幢師も海外に行っておられ、一度来ないかと誘われた事があります。海外には興味があります。坐禅の話のレベルが高くてよい話でした。
- 海外では熱心な信仰者が多くて意識の高さが分かりました
- 日頃坐禅に向かう時は苦痛を覚えていたのですが、最近は無心までは行きませんが余計な考えをだんだんなくなり少しづつ坐禅への考えが変化してきました。
- 行や修行、精進を英訳する事の難しさや、微妙な差による心持と禅思想を外国の人に理解してもらうための苦労が思われました。大変な仕事とは思いますが、他国の文化と・和合し、またはこちらの文化を紹介することはとてもやりがいのある楽しい仕事のように思われました。
- 外国の方が使う言葉が通じなくても興味を持って聞いてくれるようなので面白そうだった。
- 坐禅の話をしていただいた事が良かったです。暁天中や夜坐などで寝てしまった利する事があり、講師の先生の話聞き割り切れたこともありました。
- 私は仏教国の日本で仏教を学んでいるので、仏教国以外の国で禅等がどのように理解し受け止められているのかわかりました。
- 永平寺らしくない講義だったので新鮮で面白かった。禅の話なので興味深かった。
- 海外で坐禅を広めて世界が仲良くなるきっかけになるのでこれからの活動が大切だと感じました。外国の方から話を聞くと、禅に興味があると聞いた事があります。永平寺にも参拝者がたくさん来られます。
- 日本独特の文化で国内でしか理解されないと考えていた禅が、実は結構海外で人気があると言う事を今回知りました。人が求めるものは万国共通だと考えさせられました。しかし私自身国内の禅で精一杯なので海外の禅についてまでは気が廻りませんでした。
- 初めてでしたがとても興味が沸きました。機会があればもっと話を聞きたい。
- 海外18年間の生の話が聞けてよかった。話も分かりやすく興味が沸きました。
- 異文化で育った人通しが禅を通して何かを共有したり話し合いができると言う事が素晴らしいと思った。
- 海外での活動を初めて知り、生で体験した方のお話であったのでとても興味も沸きましたし勉強になりました。
- 坐禅の仕方についてより詳しくお聞きしたいと思いました。
- お経も英語なのでしょうか、経本を見てみたい。
- 坐禅と出合っただけで人生が変わり長期アメリカで坐禅指導や講演をおこなった藤田先生をととても羨ましく思った。私も藤田先生まではいかなくても人生が変わるような出会いをしたいとおもいました。
- あまり表には出ていませんでしたが、アメリカでの禅指導の難しさを感じました。
- 海外での坐禅布教に興味を沸き、自分の禅を改めて確認させられました。一度海外の僧堂で過ごしてみたい。
- 永平寺の修行生活には未だ良い意味の慣れを感じられません。何か特別な意味を求めたり得られるものがありそうに感じますが、ただ行を修める生活と、教えに沿って繰り返すのみです。欧米の方々が意味を求めて坐禅に来る気持ち、自分にもありますが、何かを求めて禅に触れるのではない事が分かりました。日本から禅を背負って行かれた立場の重要性が伝わってきました。
- 自分の尻が坐蒲になじまないのは何故かを考えていくと、心の問題や過去の出来事に行き着くという箇所を聞き、眼からうろこが落ちる思いがした。
- 国際布教とはどういうことか、難しさ、楽しさ等、いろいろと勉強になった。最近まで外国に居られた方なので全の捉え方と言う面で日本とは違

- う考え方もあるのだなと思った。
- アメリカの人たちは坐禅はほとんど知らないと思うが、その中で自分の考えを通して教えていく事は大変だと思う。それをあまり感じさせず、むしろ楽しかったと感じるのが素晴らしいと思った。
 - アメリカの禅堂は非常に恵まれていると思った。なぜなら動機はどうであれ、皆そこに何かを求め菩提心を発しているわけであるから、指導する方はいろいろ求められ大変だがやりがいはあると思う。今の日本の僧堂の現状は、発心すらしていない状態で、上山してくるわけであるから、スタートラインがあまりにも日本と海外で違いすぎる。
 - 海外で布教していくことの大変さが分かりました。海外の人のほうが熱心に禅に親しんでいるのではないかと言うのにも感じました。
 - 藤田師の18年間の海外布教について聞いて、本当に手探りで大変であったと思います。しかしこれから先に宗門の海外布教をするものにとって貴重な事と思います。
 - 禅とは何か、生きていく中で必要なのか、何のためにしているのか。
 - 今一日一日を精一杯に過ごしているので、海外布教のことについて考える余裕がありません。安居を終えたときにもう一度話を聞きたい。
 - 私も機会あってハワイへ研修へ行きました。日本との違いに驚くばかりです。とても勉強になりました。それを思い出しながら参加でき、良かったです。
 - 先生自身の信念とご縁の両方を大切にされている様子がわかりました。
 - 結局何が言いたかったのか坐禅を言葉で理解する事は難しい。語られていなければならないことがうやむやであったため、どのようにアメリカで禅を方っているのかが不明確であった。一緒に坐禅を考えて行きましょうだけでは何の説得力もない。もっと道元禅師の教えを忠実にすることが必要。
 - 正身端坐を説明されるのにマジックアイを用いられた事が印象深い。正法眼蔵の内容を自分の体験から説明する藤田老師のことは今までになく自分の中に染み込んできたように思う。最後に、言葉に表すと一面的になってしまうので、何かの言葉で説明したらそれを否定する言葉が必要だと言われていたのが奥深さを感じる。
 - 安居はまだ3ヶ月あまりですが日常生活で気が付かないことがたくさんあり、非常に興味深い講演でした。僅かな期間でも思い込みができてしまっている自分に気が付かされます。永平寺は坐禅に集中できる天国のような場所という言葉が印象的でした。坐禅は何のためのものか、なかなか分からないで過ごしていますが、分けるには悩む期間が必要なこと、そして道元禅師に忠実に言葉にできない事を言葉にしていかなければ自分にも人にも坐禅が伝わらない事を学びました。
 - 国境の壁を越えて活躍する宗教活動の力を感じる講義だった。
 - 短い時間でしたが米国の禅、坐禅と言う事の考え方に触れられて勉強になった。日本との考え方の違い、文化の違いという中で坐禅はどのように捉えられるのか、自分の意見と比較できて参考になった。
 - 海外で禅を布教するのは大変に難しい事だと感じました。禅を外国へ伝える事はとてもよいことだと思います。私は外国人の和尚さんと接したことがあり、そのとき禅に対する姿勢が私たち以上に高いのではないかと思います。国際布教の現場に触れたいです。
 - 禅について学びたいという人が海外にもいる事に感心させられた。興味だけで禅を学ぼうとしているのではなく、本気で取り組んでいるところも感心しました。
 - 海外でもこのような活動をしている方がいるのだと感心しました。是非私も参加したい。
 - 今日初めてSZIの事を知りました。機会があればもっとSZIについて知りたいです。
 - 私はZENと言う言葉ができるほど世界中に広まっているのだなと感じました。もう少し精神的な部分だけでなく修行の仕方など広がればと思います。
 - 海外布教について全然知らなかった藤田師のような仏教の世界への入り方もあるのだと知って新ことを聴きました。
 - 藤田さんは物の見方、捉え方が鋭いので自分もいろいろな経験をして知識の幅を広げたい。
 - 海外布教には興味がない。坐禅には興味があるので講義はためになった。坐禅ただ一本で海外に行き、布教される姿が新鮮だった。
 - 出来ないときの坐禅が大切、出来ない乗り越えて出来るようになる。曲がりなりにも座っている事が大切。参禅者に坐禅を教えている私にとってはハッとされる一言でした。
 - 道元禅師の勧められた坐禅を縁のある人に長くつづけてもらう事を伝えていったと言う先生の講義に心を動かされました。日本を離れた土地でそれを行う事は大変な苦労だったと思います。私自身参禅係として一般の方に坐禅を勧めておりますが、納得していただける説明が出来ているのか不安でした。それは未だ道元禅師の坐禅を私が理解していないからかもしれません。
 - 海外の禅堂はどのようなものか興味はなかったのですが、藤田師の話聞き、興味が沸きました。
 - 私は一般の方の坐禅指導をしているので今回の講義には大変興味が沸きました。最近では外国の方が参禅する事も多く、日本の方との思想の違いとか禅に対する気持ちの伺いなどがどのようなものか少し知ることが出来ました。
 - 異文化圏での取り入れられ方が分かってよかった。禅に静というイメージを持っているが、特にアメリカのように競争激化社会のカルチャーでの受け入れ方がわかった。
 - マジックアイの話を変え、大変面白かった。坐禅が身近になった。
 - 坐禅を行うときの心の持ち方と言うものを理解できました。何かを目指して一直線に進もうとすると、逆に見えなくなる事は良くある。道元禅師の目的を求めずただ坐りなさいというもののがなんとなく分かりました。いつも同じ事の繰返しですが、たまにこのような講義を受けるとこれからの坐禅に対する姿勢を見直させられます。道元禅師の下での修行を改めて考えさせられる良い機会になりました。
 - 海外でこのようなことが行われていた事は知らなかったで、大変勉強になった。
 - 普段なかなか海外の曹洞宗の情報が入ってこないで、大変勉強になった。
 - 日本と海外の言葉の違いをどう説明しているか、また外国人に対し坐禅をどう説明しているのかを聞いて勉強になった。
 - 日本と言う国を越えて広く海外へと目を向けている国際布教師の方は大変素晴らしい修行をしていらっしゃると感じましたし、他国の人が熱心に仏道を行じるこの手助けをすることは国際布教師の方にしかできないことだと思ふ。
 - 坐禅をしている人の中に事前に勉強をされている方がたくさんいて、どうも頭で理解すれば坐禅そのものを理解できると思っている人がいる、坐禅とは頭で理解して直ぐに出来るものではないとおっしゃいましたが、私も物事を理解するのに、はじめに頭で理解しないと直ぐに物事に取り掛かれる方ではないので、その自分の姿勢を見直したいと切実に思いました。
 - 海外でも曹洞宗の禅についてこれだけ外国の人が興味を持っているとは思わなかったので驚きました。幸せになろうとがんばってもその頑張りか邪魔になって幸せになれない、という話に感心しました。坐禅を永平寺で初めて修行としてみるのではなくリラックスして外側から別の角度から考える事が出来ました。これからのいろいろな角度から坐禅を考えて行きたいと思ふ。
 - 漠然としてははっきりとした内容が掴めなかった。
 - 坐禅がどうよりも、国際布教の難しさが分かった。
 - 丸一日の講義にしてほしかった。
 - 海外で禅を教えるために只管打坐は通用しない事に大変な苦労をされたと思ふ。
 - 眼蔵会では難しい単語が多く、わかりにくかったが、今回の講義は非常に噛み砕かされていて分かりやすかった。
 - 海外に行きたい人がいけば良いと思う。ただし本当の僧侶になってから行ってください。ワークショップは知識ばかりで生きる人の集まりであり意味がないと思ふ。
 - 日本より外国の生活が長かったと思うが、それぞれのいいところ悪いところ、考えの違い、共通点をもっと知りたい気がした。
 - 自分の知らないこと、活動がこんなにあったことに大変驚いた。
 - 言語の違う国で坐禅と言うものをどう伝えたらよいか少し分かったように思う。
 - アメリカで坐禅を語るというのは、我々がこれから日本人に坐禅を広めるためのヒントの一つではないかと思いました。
 - アメリカ人の心の支えはキリストだが、禅にも人生や仕事の悩みを抱えている人がたどり着くのだと思った。人は悩んで成長するものです。日頃の布教活動の成果だと思います。
 - 私は今坐禅が生活に欠かせないものだという実感があります。しかし自分が思う坐禅とはかけ離れています。また、坐禅とはこうだと語ることが出来ない自分がどこからともなく坐禅がなければならぬこの気持ちはなんなのだろうという疑問もあります。応急処置ではなく、できていない今を大切にしようというお言葉で少し心が楽になりました。迷中又迷とはこのことでしょうか。
 - 永年に亘り海外で布教されていたということで正直羨ましい。ゼロから初めて此処まで広がり、素晴らしい事だと思います。
 - 禅がどう受け入れられているか、実際どのようなことを行っているのかなど、直接現場の話聞いて興味は沸いた。
 - 日本とは全く文化の違う国で、布教活動を行うということはとても大事なことであり、布教を行う本人にとって話を聞くことが出来良かったと思う。

- ・実際に17年間やってこられた方の話を聞いて興味深かった。
- ・正直に言うと状況報告という感じでタメになる話ではなかった。しかしマジカルアイなどうまい例だと思いました。アメリカの人はわからない事は直ぐに聞いてくるというので、言葉で表現できないものをなんとか表現するといった術は身につくだろうと思う。思ったとおり、外国で禅というものを語るには外国の方の考え方と違った考え方があるというのを気が付かせることから始めるのだなと思いました。マジックアイは良いたとえだと思いました。
- ・海外における禅が少し分かった。
- ・普段毎日している坐禅、他国に行って何故坐禅をするのか、意味は何かと聞かれたらまず答えられない。とても大変で難しいと思いました。
- ・坐禅についての捉え方が少し違う。国、人によって坐禅の考え方がいろいろある。永平寺での禅しか知らない私にとって勉強になった。
- ・アメリカの禅や仏教に対する日本人との考えの違い、それらを肌で感じてきた講師の話を受けてよかった。
- ・国際布教という言葉を受けてすごく固いイメージがあるが、先生の話を受けて身近に感じる事が出来た。
- ・正直、只管打坐という言葉にしばらくただ坐れば良いと思こんでいたが、それだけでは駄目だと感じさせられた。
- ・禅という自分自身という己に重点を置くべきと思っていましたが、講義の中から他者の意見から学ぶべき点、日本だけではなく海外の人々の違った視点なども踏まえる事で自己の禅を深めていく事を学びました。
- ・藤田師の視野の広さや考えの柔軟さが、永平寺と言う殻に縛られすぎている自分に気づくことができました。僧堂生活しているものにとって、海外の話は興味深かったです。
- ・日本では精神統一やじっとして集中力を高めることをして坐禅が受け入れやすいが、外国でじっとしている習慣がないので教えるのが大変だと思う。
- ・話の展開が速くついていけませんでした。
- ・私たちとは違った禅との出会いが講義の内容を興味深くさせていたので面白かったです。
- ・藤田先生の略歴から始まり米国での経験を踏まえた国際布教の現状などを話されていたが、個人的にはもっと参禅から得度するまでのより詳しい心の変化や米国での禅への関心度、例えば一部の禅への好意的な評価だけでなく、禅への批判や理解度など米国宗教界全体から見た禅の位置づけなどの現状を聞きたい。
- ・私にとって本日は大変な衝撃を受けました。特に坐禅の取り組み方、そして人生を歩むに際してマジックアイを例にとっていく見ようとも焦点をあわせて頑張っても見えない、頑張れば頑張るほど不幸になるというケースのお話は大変興味深かったです。
- ・海外での布教活動、大変興味深い内容でした。
- ・講師のお話の中から、有効な寸言がありました。
- ・坐禅をしたらこうなるだろう。欲望と期待を持って行うことは誤りですし、ただ坐る。「平安になりたい」「安楽の境地に入りたい」として行うことは、欲と期待ではないか。自然体になることを期待していても。
- ・色々な坐り方の話をされましたが、どんな坐り方をしても意識をどうするかポイントなのだろうか。禅宗は坐ってなんぼだが、坐禅は足や姿勢の問題で身体的な苦痛の方が多く感じる。動かずにただじっと座って気持ちよくなるようになるためにも努力が必要？自分は坐禅を組むと背中が痛くなるのだが、姿勢の問題だろうか。
- ・坐禅というものに違った角度からの見方を感じた。
- ・自分はまだまだわからない事が多いが、今日のワークショップに参加し、話を聞いたことは良かったと思う。
- ・禅について思っていたことが少し変わった気がした。
- ・坐禅は幅が広いと思いました。
- ・今回藤田さんの話を聞き、外人が禅についてどう思い来ているのかがわかりました。坐禅をするまでの予備知識があるために実際に体験した後の対応・指導は文化が違うと大変なのだろうと思いました。
- ・坐禅がこれほどまでに世界中で知られ、行われていることを知らなかった。実際にどのような活動をしているのかも知ることができ、興味深かった。
- ・海外での布教活動に興味がありました。
- ・「私はアメリカで坐禅をどう語ったか」というタイトルだったが、アメリカの話がほとんど無かったので、「アメリカで」という言葉を付ける必要が無いと思う。(米国人に関する話はあったが) 海外の環境の話をもっとして欲しかった。以前、フランスの禅道場で修行をした人の話を聞いたことがあるが、その時は、現地の環境や、日本との違いを色々話してくれたのでおもしろく、とても勉強になった。
- ・自分は坐禅とは、背筋を意識的に伸ばし、足が痛いのがガマンし、ただひたすら座するというものだと考えていました。ですが、先生の話だと、坐禅とはもっとゆったりしたものだと聞かれたのを聞いて、実は坐禅とはそういうゆったりとしたものなのではと考えさせられました。確かに今す

ぐゆったりとできませんが、一度先生の坐禅というものを聞いてみたいと考えました。

- ・坐禅というものに対する考え方がいろいろあっておもしろいと感じた。坐禅が快感という感覚に到達するにはまだまだかかりそうです。
- ・坐禅は奥が深いと思いました。
- ・自分は坐禅が少し苦手なものであったが話を聞いていて少し興味がわいた。
- ・質問にも的確に答えていてすごいと思った。
- ・最後の質疑応答の話が興味深かった。
- ・色々な人の禅にたいする考えが聞いてよかったです。
- ・18年もの間、海外で坐禅の指導をする話を聞いて大変勉強になった。
- ・坐禅について、何が正しいかを議論してもキリがないと思う。それぞれの思いがあるから。
- ・海外で活動してみたいと思いました。
- ・以前にSZIの活動に参加させて頂き、また今回は坐禅を中心とした話を聞かせて頂いて、感謝しております。
- ・坐禅というものは国際布教するにおいてどう伝えていくか、課題は難しいものだと感じた。セラビーではなく、坐禅独特のものがあると思うので、自分で肌に触れて坐禅を通して感じなければ分らないと思った。
- ・師寮寺に戻ったら、坐禅会などを行いたいと考えました。
- ・禅の考えが人それぞれ違うのでビックリしました。禅の深さを感じた。
- ・外国にとっても興味があるので、上記の国際布教の現場に触れたいと思った。
- ・あまりかんがえた事のないことでした。坐禅とはただ座っていれば良いと思ってました。
- ・日米間の言葉のカベによる受け取り方によって坐禅を正しく伝えることが出来ないという問題をどう乗り越えていくかが難しいと思った。
- ・私ももし機会があれば海外での国際布教にかかわってみたいと思いました。
- ・とても勉強になりました。
- ・海外では禅がどうとらえられているのかという点が印象に残った。
- ・興味はわかかなかったが、こういう話もあるということが参考になった。
- ・異文化の中で、ひとつひとつ説いていくことの実際を語って頂き、坐禅指導に興味を沸かした。
- ・よく分からない。
- ・坐禅をする機会が未だ少ないので、やや難しかった。
- ・質疑応答は的確に答えていただいてありがとうございます。
- ・私たちは上山してからも"坐禅"というものを教えてもらうことができなく、私は丹下さんという方に会いようやく禅を少し理解することができたと思います。今日のような話を聞いて、大変分かりやすく、また今後も指導を受けたいと思えました。海外へ布教する上では、多少論理的になり、また誤解を招くことがあっても、多くの言葉を費やして、その後に個人の内からそれらを消していくという実践が必要なのではないか、と感じました。
- ・海外で坐禅を教えるには、他の宗教との差を教えるのはとても大変なことだと気が分かった。坐禅の意味を外国の方に教えるには、共に座るしかないと思う。
- ・坐禅はplay(するもの)、禅はlife(生活)だと自分は思う。あと理屈を言っはははじまらない。よく「空」だとか「無」になれとかいうけど、自分は常に意識することだと思う。生活の全て1つ1つ意識することが大切だと思う。いつのまにかできてる時、「無意識」になるんだと思う。
- ・坐禅に興味があるアメリカ人(瞑想ととらえる)が多いということは、自分は始めて知りました。日本人でも機軸的要素として興味がある人は多いというので坐禅にもそういう要素が確かにないわけではないという答えは納得しました。
- ・多くの違う禅を聞いてよかったです。日々の坐禅の参考になりました。

講師の先生へ

- ・今後も海外布教のあり方についていろいろ活動して欲しい
- ・今後も日本と海外の関係を深めるために頑張ってもらいたい
- ・布教活動の話のほかに講師先生自身のお話も聞かせていただければと思います
- ・国際布教について聞く機会をいただけ助かりました。また機会があれば聞いてみたいです。
- ・ありがとうございました
- ・坐禅があらゆるものの根幹に当たる存在だという考えに至った経緯をしたいと思います
- ・最近の外国の方は日本人より日本が好きというイメージがあります。日本に興味をもち禅というものに触れることはとてもよいことだと感じます。禅に関しては外国人のほうが日本人より興味津々で逆に詳しい横中になっていると思います。海外で布教することにより得るものが多そうに羨ましいです。
- ・アメリカ人相手に坐禅を教えるのは難しいと思いました。坐禅の捉え方、考え方が自分とは少し違い、興味深かったです。
- ・坐禅に対する取り組み方、並びに意識が変わりました。
- ・今回の話はとても自分の為になりました。別の機会があれば参加してみたいです。自分自身もっと勉強してみたいです。マウイのときに、葬式に来る人がアロハだったことに驚きました。マウイの人にとって正式な衣装なので、もっと他の国のこと、内容を知りたいです。
- ・人にとって一番難しい事は、自分が出した正しい答えから自由になる事だと思う。仏教でも、この境地を「魔境」という言葉で示していますが、理解を探すのではなく、目標を探し続ける事はこの予防というのでしょうか。
- ・今後の布教の実情を是非知りたく思います。
- ・自分も先生と考えが似ています。海外と言う自分の今いる立場からも視野を広げてみて、学ぶのはなかなかできる事ではないけれども、実際に行っている先生は素晴らしいと思つた。
- ・これからも海外での活動頑張ってください。
- ・布教することは難しい事だとは思いますが、これからも頑張ってください
- ・自分にもないものを持っている人は凄く思う。自分にはできない。
- ・宗門という枠にとらわれない先生のような考え方は、大変良いとおもいました。布教に関する大切なものを教えられるような気がしました。
- ・アメリカのように何も知らない人に坐禅を教えるのは大変だと思います
- ・これからも布教に力を入れてきたことを生かして更なる飛躍を期待します
- ・坐禅の魅力について熱いものを感じました。先生の坐禅の先にある者は、私からは言いませんと言われた言葉、自分で見つけなさいと言う言葉が心に残りました。
- ・広い目で禅を見ておられる一照師のお話を聞けて、従来の地元、地域といった場所では活動を考えていない自分に新しい道の糸口が示されたようでした、ありがとうございました。
- ・一人で外国で坐禅を教えると言うことが凄く思いました。まして在家の方だと言う事で、他の人より坐禅に対する思いが強いんだなと思いました。
- ・私も沢木老師の系列で、禅に重きをおき、禅を一生続けていきます
- ・枠に囚われていない感じがしました。禅に対して広い視野で捉えていて、お話がとても興味深かったです。ありがとうございました。
- ・今日はお疲れ様でした。曹洞宗の海外活動については全く知らなかったので、新鮮なお話を聞かせていただきました。
- ・分かりやすかったです。
- ・分かりやすく興味を沸かして下さりありがとうございました。
- ・禅と言う硬いイメージを講師のユニークな表現で楽しく聞けた。
- ・坐禅を研究され、とても勉強になりました。これからも禅の布教活動をがんばってください。
- ・アメリカでのお話を個人的にお聞きしたいと思いました。また、講演をされる機会がありましたら是非参加したいと思います。楽しく勉強になりました。
- ・海外での禅指導の経験を、逆に日本人の禅指導に生かしてください。
- ・とても良い話でした。また機会があればと思います。
- ・海外の方、特に欧米系の方は禅と言うものをよく理解していらっしゃると思う事があります。我々日本人よりもはるかに禅に理解をもち、実践されている多くの方々にとって禅宗の僧は、特に禅を実践していく見本にならなくてははいけないと思います。まだまだ私には修行の何たるかや禅が分かりませんが、少しでも実践して身に付けていきたい。
- ・海外での参禅指導体験は、確かに興味深かった。永平寺のように暁天坐禅、夜坐が一日の行持に完全に組み入れられ、且つ疲労のために眠

- り込むものも多い道場で坐禅を行じる際のヒントを教えてくださいました。
- ・アメリカ人は何故座禅をやりに来るのか。アメリカ人と坐禅の関係について知りたかった。
- ・海外の経験を生かして、日本の僧堂でも活躍していただきたい。日本の僧堂はなかなか外と違い、疑問に答えてくれない事がある。だからアメリカの禅堂で行っていたように一つ一つの疑問に親切に説明していくような僧堂を作っていただきたい。
- ・今後、もしまた海外布教に行くようなことがあったとしたら、どの国に行ってみたく思いますか？
- ・禅の世界は同じ文化圏の人同士でも理解が難しいのに、それを海外で布教された大変さを思うと頭が下がります。
- ・アメリカと日本の生活の違い、価値観の違いがある中、アメリカ人にも興味を沸かす前途は何か、彼らは分かってくれましたか？
- ・18年間の海外布教活動についてももう少し詳しく話を聞きたい。
- ・アメリカにおける日本の教えが抱える問題、日本の仏教が抱える問題と同じだと思います。日本だけの仏教と見ては分からない部分も布教と言う視点からみて、また触れる事によって分かり、これからの仏教の抱える問題点の解決に役立てられると思う。良い講義をありがとうございました。これからもがんばってください。
- ・外国の人に伝えられるならこれ以上のことはないと思う。道元禅師の教えを土台にしっかりすえた上で精進すれば良いと思う。難しいかもしれないが、人に受ける受けられないというレベルではなく、広く道元禅を広めれば良いと思う。迷いから離れる坐禅の姿の素晴らしさを世界に広めたい。
- ・すごく自然体の先生にお会いできてこれからの坐禅の考え方が変わってきたような気がします。坐禅をもっと大事に行きたいと思つています。
- ・お名前も覚えておりましたが、アメリカに居られるのでお会いできないだろうと思ってたところ、お話を伺えて非常に嬉しいです。言葉に表せない細やかな部分を何か言葉にしていく事が、坐禅さらには仏教を人に伝える際に最も重要でかつ難しいことではと思うが、先生のお話を今後機会があれば伺いたい。
- ・私達には見えない視点からの講義はすごく新鮮でした。まだまだ話を聴きたかったです。
- ・SZI会報を見て略歴を見るかぎり枠に囚われておらず、そのような考え方が国際布教に必要なかと思つました。
- ・大変分かりやすい話をありがとうございました
- ・海外で布教活動をしている人の話というのは、なかなか聞けないので勉強になりました。
- ・また機会があれば聞いてみたいです。
- ・私も在家なので、いろいろな活動をしていきたい。
- ・心の置きかたは自分自身が行じる場所で感じ、時には悩み、身につけていく。何でも安易に与える事ばかりの世の中で自ら体解することも深まりへ繋がっていくのだと感じました。
- ・これからも国際布教を続けていかれる事を強く望みます。
- ・アメリカの雰囲気、とても新鮮でした。アメリカの方々も真剣に純粹に禅を求めている様子も伝わってまいりました。海外布教についてもっと知りたい、私にできることは何かないでしょうか。英語が分からない私ですがそのような感想を持ちました。海外から見て私たち修行僧はどう映っているのでしょうか。
- ・これからもこのようなワークショップを開いてほしいです。
- ・参禅に係わって半年になりますが、日本の参禅者は大体の方が自分自身の悩み、人生の再出発の起点、など思い悩んだ方が多く見られます。それに比べ、外国の方は坐禅を楽しんでやられている方が多く、仏教に対する探究心が強く感じられます。実際海外ではどの様な方がいらっしゃるのでしょうか。
- ・今後のご活躍をお祈りいたします。
- ・本当に坐禅が好きでやっている人だと思つた。
- ・先生が言われたとおり、坐禅の方法よりも坐禅を行う事に対しての心の置き方というのが大切だと思う。私が思うに、さらにその前の、なぜ積尊が坐禅、苦行をおこなうことになったのか、というところが最も大切なのだと思つました。積尊が事故の老死に対する恐怖の解決を求めて修行された、それをふまえて坐禅、そして仏教を信仰する姿勢でないと仏教が持っているものとはかけ離れてしまう。心の置き方が大切なのだと感じた。
- ・もっと曹洞宗の禅を海外に広めてほしい。
- ・英語で禅の精神や形を伝えているのに感心しました。
- ・東京大学大学院発達心理学を学ばれていた、完全に仏教とは違う道から仏教へと出会われて発心されたことは本当に素晴らしい事だと思います。
- ・国際化する社会の中で日本語でさえ伝えるのが難しい禅を異国の地で

教化されるというのは大変だと思います。

- ・禅がこれほど海外で深く考えられているとは思いませんでした、勉強になりました。
- ・今まで気づけなかった事を気づかせていただきありがとうございます。坐禅をする事が少し楽しみにになりました。
- ・もう少し具体例を挙げてその対処法をお聞きしたかった。時間が短かったので仕方ないことで残念だった。
- ・経験を日本在住の外国の方に生かしてほしい。
- ・曹洞宗の教えの一番の柱は、坐禅であると思う。毎日坐禅をしているが、ただ坐るだけなのに何か考えたり眠くなったりする。今の生活は何か無理やりやらされている気がします。坐禅はそうではなく、自分がやりたくなったときにするものだと思う。
- ・分かりやすい説明で聞きやすかったです。暑期中ありがとうございます。
- ・もっといろいろな海外での僧堂生活についてお聞きしたい。
- ・アメリカ人などは、坐禅を宗教の一つとして見ているのか、修行の一つと見ているのか。
- ・アメリカの人にとって坐禅とは何なのか、坐禅により変化した事、坐禅で人生が切り開かれたのか。
- ・外国人に禅を教えることはいろいろな大変だと思いますが、私たちより素直に聞き入れてくれるのではと感じました。
- ・私は外国語はほとんど出来ませんが、言葉を上手につたえるコツはあるのでしょうか。
- ・禅の奥深さを改めて感じました。ありがとうございます。
- ・とても興味を持ってのお話でした。坐について説明するにはやっぱり外国人でも日本人でも理解してもらうのは難しいと思いました。
- ・坐禅に興味をもつというのは日本人も海外の方も同じ感覚なのかと思った。
- ・送行して坐禅しようとは思っていませんが、気持ちがなくとも続けたほうが良いのでしょうか。坐禅をしても足が痛い、何時だろう、暑い、寒いといういろいろ考えてしまい、とても好きになれません。
- ・これからも海外の活動を続けられると思いますがお体に気をつけてください。
- ・外国人の人に正しい禅を伝えるのがいかに難しいかがよく分かりました。
- ・表現の仕方が日本人と全く違って面白かったです。自分の勉強不足ですが時々出てくる英語の意味が分かりずらかった。
- ・自分の体験がもとになって話されているので分かりやすかったです。
- ・外国では散歩のついでに坐禅をするも聞いたことがある。私個人としては、僧堂で座るのも気持ちがいいものだが、外に出て坐るといものもあこがれる。会報の写真で明るい部屋で坐っているのを見て、楽しく坐っているのだと思った。
- ・ワークショップお疲れ様でした。
- ・私も海外で布教をして行きたいと思っているのですがなかなかしたいと思ってできません。どうすればチャンスにめぐり合おうでしょうか。
- ・日本の曹洞宗で国際布教に対する関心度や理解度はまだまだ低いと感じます。それとは逆に、今後、国際布教への重要度というものは、高くなり、布教の中心になるのではないかと。藤田先生のような方が国際布教の重要性を説いていくことを期待します。
- ・大変面白いお話でした。自分の中で何かを発見できた感じです。また機会があればと思います。
- ・機会を得て坐禅以外の演題について。
- ・唯坐って、【読めず】で、坐ることの難しさがなかなか難しいことが分かります。期待しないで待って居ますか。坐禅とは何か、まだ分かりません。
- ・ハリと禅の話をもっと少し聞いてみたかった。
- ・坐禅について色々聞いてよかった。
- ・アメリカという異文化で禅を指導するのはものすごく大変だろうと思いました。言葉では表現しにくいニュアンスを例え等で教えて下さりまして、聴講していてわかりやすくいろいろなことに気付かされました。
- ・わかりやすく楽しい講演でした。
- ・今回のタイトルは「私は今まで坐禅をどう語ってきたか」でいいと思う。私が最も期待していた海外の話が無かったので、話がとてつまらなく、マジメに聴く気がおきなかった。「外国人は～」という話だけする人だったら別に海外に行つて布教して人じゃなくてもいいんじゃないですか？海外で堂長やって人しかできない様な話をして下さい。
- ・先生の話をして聞いて坐禅というものは、自分の考えていたものとは実は違うものだと感じました。先生の話は頭が風船みたいにプクプク浮く感じだとか、坐禅をして気持ちがいいとか今まで自分が全然感じる事ができなかったことを言われていたので、すごく、話を聞いてて不思議に思い、実は、坐禅とは気持ちがいいものではと考えさせられました。
- ・坐禅のことについてこまかく教えていただきましてありがとうございます。

した。

- ・坐禅について色々を知ることができました。
- ・アメリカにおいて活動をしていらっしゃるということはとてもすごいと思いました。
- ・本日はお忙しい中、講演していただきありがとうございます。
- ・坐禅を通しての外国人との心の通い合いの話や、まだ聞かせてほしい。
- ・今、参禅寮にいますので、大変勉強になりました。
- ・布教参禅寮係の配役を頂いているので、大変勉強になった。
- ・外国に行かれた経験を、日本人にも活かしてほしいです。
- ・大変わかりやすい講義でした。ありがとうございます。
- ・本日は坐禅のことについて、分かりやすく説明して頂き、有難うございました。
- ・坐禅というものに独特な思い、考えを持っておられる事を感じた。
- ・先生の話聞いて禅とは何か考えたいと思います。
- ・内容が少しむずかしかったですが、お話を聞いてよかったです。
- ・先生と坐禅との出会いは、偶然の必然であると思いますので、頑張ってください。
- ・今後も禅の参究にがんばってください。
- ・頑張ってください。
- ・内容は面白かったと思うが、少し話し方が聞いていてスムーズではなかったかと思う。
- ・これからもがんばってください。日本人に対しての坐禅指導法が知りたいです。
- ・とても話がわかりやすかったです。
- ・本山では聞けない坐禅に対するアプローチ等が、参考になりました。
- ・よく分からない。
- ・ホームページ等ありましたら、是非拝見したいです。
- ・海外赴任先でのお話を聞きたかった。
- ・自分は駒澤仏を出ておらず、他大で映画をとったり雑誌を作っていました。人材育成を考えるのであれば駒仏出ばかりの集まる本山を見てみると、より広い世界を見ることが出来る人材を育てる必要があると感じます。本当に熱意のある人材をspoilerする環境がないのでは。私は送行したあとは海外で雑誌のライターをしたり写真をとったりしたいと考えているのですが、これからも禅的なものが自分の心の底に流れていくのだと感じます。うまく言えませんが、縁があればきっともう一度どこかでお会いできる気がします。
- ・もう少し法話の内容についての資料が欲しい。大変分かりやすい内容でした。
- ・自分は本山に来て始めて坐禅、又僧堂生活を体験しました。正直な所、自由に坐る程時間によゆうはないのですが、(学生の)時間割のような感じで、朝起きたら坐るとい位しか、まだ感じていません。自由になったらどれくらい坐るものなのか気になりました。
- ・日本でも禅をひろめていただきたいです。

SIワークショップへの期待

- ・現地で活躍している人の話が聞きたい
- ・海外の禅に関心ある人たちとちょっと話をしたい
- ・布教活動をする側だけでなく、受けた側の人の話もうかがわせていただければと思います。
- ・体験学習のような形式で国際布教を経験させてもらいたいです。
- ・ディスカッション形式を希望します
- ・外国人の方を招いて交流、会話
- ・特に坐禅に対する知識が広がるような内容を期待します。
- ・映像を交えたもの
- ・全員で一つの事について細かいところまで話せることがしたいです。海外ではどのようにしているとか、法要は、等、知らないことが多いのでもっと知りたいです。日本と・海外での違いもたい内容も聞きたいです。
- ・海外の僧堂生活を体験する事が望ましい。
- ・通訳を通して外国人の人と直接お互いの意見を聞ける場にしてほしい。
- ・禅の事だけに囚われず、人と人のふれあいを大切に国際交流
- ・禅について全く知らない人でも受け入れられるような布教
- ・やる気のある人
- ・他国の人を交えたディスカッション等
- ・今後も続けていけるようがんばってください
- ・もっと少人数のディスカッション形式で行ってほしい
- ・有志による現地研修や、今は音楽やアパレルを中心とした若者文化でも禅の要素を取り入れたものがあるので、その方面との交流
- ・活動をしている光景を映像で見たいです。

- ・アメリカ流で相互に主張し分かり合える形式を望みます。
- ・どのような活動をしているのかビデオ等の映像資料を用いてほしい
- ・外国の人は何を一番修行だと思っているのか聞きたいです。
- ・海外の人の話を聞いてみたいです。
- ・海外の方のお話を聞いてみたいです。
- ・海外で活躍されている方々のお話を聞きたいです。
- ・曹洞宗だけでなくあらゆる宗派が集まって平和を話し合ってほしい。
- ・今回のような講義形式では聴く人と距離がある気がする。もっと近くでざっくばらんに話が出来る形式をお願いします。外国に暮らす僧侶の生活や、寺院の歴史なども知りたいです。
- ・情報を様々な手段で提供してください。
- ・支援活動で着物などを集める際、告報で出すのではなく、僧堂に直接頼むのが良いと思う。
- ・国際交流により新たに自分の禅に気づくことが多いと思います。次から次へと疑問をぶつけていく欧米のかたがたと交流を深める事がよい刺激になると思います。
- ・少人数でいくつかの班をつくり、一定の日数をかけて段階的なプログラムに沿って行うと良い
- ・海外の実際に坐禅を経験した人を招いて意見を聞きたい。
- ・もっと意見を交わす時間がほしい。
- ・実際に海外の人々に布教しているところを見せていただきたい。
- ・資料用のビデオとかあれば見たい。
- ・講義でも研修でも機会があれば参加したい。
- ・国際交流の場を増やして海外で禅に取り組む方をもっと身近にしてほしい。
- ・大本山永平寺の修行形態、正法眼蔵の教えを熟知したもの、坐禅の行が身につけているものが国際布教をしてほしいものである。坐禅だけに囚われずに、生活そのものに目を向けた講義も聴いてみたい。坐禅を中心にした生活は究極だがそれ以外の生活も着目したい。特に外国と永平寺とは大きく違うだろう。
- ・最初のうちは今回のような講義によってSZIの活動を知っていくことが良いと思う。しかし実際係われる機会があれば積極的に参加したい。
- ・国際布教師や禅センターで指導されている方々の活動を直接ご本人から聴ける今回のような講演会や実際に現地へいける研修会等がもっとあれば良いと思います。また、日系寺院や禅センターの現状、共通点、異なる点など双方がより密接に連絡しあって日本にも情報が得られれば良いと思います。
- ・今後できる事なら様々な角度から話を聴いてみたい。実際に参加体験したいです。
- ・実際に海外で修行されている現地の方の話を聞いてみたい。
- ・できれば実際に海外に行って布教したほうが良いと思いますが、無理があるので実際の映像などを元に構成してほしい。
- ・どういう理由で坐禅をやり始めたのか、海外の道場の紹介などをしてほしい。
- ・交換留学を希望します。
- ・海外の現地での話を聞きたいです。
- ・その国が何を求めているのか。坐禅をどう思うのか実際に行けるとどう変わるか、続けていけるのか等を聞きたい。
- ・海外の活動を映像で見たいです。建物の様子、参禅者の様子、食事等。日本と異なる点も多いはず。海外の方の話も聴いてみたいです。
- ・興味がある方に対しては道を開いてほしい。国際交流の場を多く持ったほうが良いと思う。今後の更なる積極的活動を期待します。
- ・他の国ではキリスト教、イスラム教など他宗教が主に信仰されています。そのような他宗教を信仰している人と逢って話す機会があれば改めて宗教のことを考える事が出来る機会になると思う。
- ・グループワーク、ディスカッション
- ・ディスカッション形式が良いものだと思います。
- ・実際に活動現地に行くのが一番なのですが、できれば映像を見てみたいです。
- ・現在、実際に外国の僧堂で修行している方、何人かの話も聞いてみたいと思います。
- ・どんな生活をしているのか、もっと具体的な話を聞きたい。
- ・住職予定地がスペイン人や日系ブラジル人の多いので京都の寺社を案内する事も多々ありますが、坐禅の指導といったものや曹洞宗を説明するには語学不足のため行った事ありません。サポートしてくださる方がいると良いのですが。
- ・映像で分かりやすく明確にしてほしい。
- ・多様化する文化風俗に対応した布教活動をしてください。
- ・何も期待しない。
- ・外国人の禅僧の話、生活などを知りたいです。
- ・人材育成、能力開発等、もっと詳しいことが知りたいです。
- ・もっと積極的にディベート、意見が言い合える形が良い。
- ・今の時代はインターネットで情報が得られるので布教活動のあり方を見直したい。
- ・本山で二度目ですが、今回、前回と同じように現場で活動されている方が感じられる疑問、またそれから今どう感じ、どう行っていくかという話を今後も聞きたい。
- ・SZIの事はよく分かりませんが、海外で活動できる機会を増やして欲しいです。
- ・SZIの活動が詳しくどのようなことをやっているのか分からないので改めて勉強して知っていきたいです。
- ・きっと今のままでは参加しないと思います。でも他国仏教宗との交流はしてみたい。
- ・僧侶でない人が多く参加して欲しいと思います。仏教や禅に対して日本よりもアメリカのほうが感心があるように思えるのは少し寂しいからです。
- ・日本に実際に修行しているものの海外派遣等をして欲しい。
- ・日本語しか話せませんが、日本から、海外から日本へ、また海外の仏教圏外の人々が仏教に関心を示しているとの講義があると良いです。
- ・永平寺の雲水が海外に、海外の方が永平寺にとそれぞれ修行できる機会があればお互いに良いところ学ぶところが見えてくると思います。短期間でも少しでもそういう機会を作って欲しい。
- ・人材育成、もっと少人数でのワークショップ
- ・SZIの募集要項が知りたいです。
- ・修行僧を国際布教へと勧誘するセミナーくらいの気持ちで講義されても良いのではないのでしょうか。そこにいきたい、参加したいと思わせなければ後は続かないし、これだけ多くの人材を勧誘できる機会はないのではないのでしょうか。
- ・世界の宗教間対立が激しさを増してきています。文化、習慣の違いからくる事もあると思いますが、そういう宗教という枠組みを超えた形の交流と言う事を前面に押し出したらよいと思いました。例えばスポーツのような一体となれる、それぞれが心を開く事が出来る場をもうけることから禅を知ってもらう形式が良いと感じました。
- ・他国の人の話も聞く機会を設けて下さる様に期待します。
- ・今の日本は、海外から禅という点で注目を浴びている。争いのない宗教という点の他に周りが海に囲まれていて独自の文化が発達しているから等の理由もある。日本人の方が外国人の方が禅にくわしい事もあるので、まず自分が禅について勉強する必要がある。
- ・実際に坐禅をしながらという形式で聞いてみたいです。
- ・私は布教に少し興味があり国際布教支援などの活動に参加したい。
- ・今回は坐禅のことでしたが、今後は禅の思想という内容を知りたい。
- ・私は今回はじめてこのSOTO禅インターナショナルを知りました。実際に外国人の方と禅について語ってみたい。外人の方と普段禅について話すことはないで外国人の人の考え方を知りたいです。
- ・写真とかビデオ、何か映像があるといいと思う。言葉だけでは伝わらない事はたくさんあると思う。
- ・外国の方の禅に対する理解や考え方がどんなのであったか聞きたい。
- ・言葉で話すということよりすこし黒板に書く等していただけるとわかりやすいと思った。
- ・禅というものをどのように布教していくか。国際社会においてどのように坐禅を伝えていくか。
- ・海外の方と直接話をするなどして、興味を持てるようにする事が大切だと思う。
- ・何かビデオ学習みたいなものがあったら良いと思いました。
- ・今後の仏教界について。
- ・実際に坐禅をする時、参禅会を開く時などに具体的な注意点など。
- ・講義形式・日本人に対しての坐禅指導について。
- ・異文化の方(海外の方)の参禅者、または僧侶の講演に参加したい。
- ・予習できるとよい(講師の著書など)。
- ・もっと詳しい内容の海外情報がほしい。
- ・禅に近づくほどに、言葉や情報が不要になり、また原始的になる気がします。方向性をはっきりさせるために、一度多くの言葉や情報をあふれさせ、それが消滅する過程を意識することで、禅により接近できるのではないかと思います。一度禅から遠く離れ、バスケットをしたり、音楽を奏でたりしてみたいかたがどうでしょうか。
- ・法話では人材育成についてもう少し聞いてみたかった。
- ・もっと世界の様子を知りたい。自分は禅僧として布教するのではなく、一人の人間として行った国々のルールで暮らしてみても、全身で他国の空気・生活を感じたい。今はお坊さんとして、布教するのもいいが現代社会において、日本内外を問わず根本である人間の生き方を見たい。人間みな地球人!! Peace。
- ・自分は初めて参加したので、まだ何も言えません。

法具を贈ろう。仏法を伝える為に出来ること。

梅花講法具 特別募集！！

使われていない法衣や法具（袈裟、絡子、笄、払子、数珠など）を海外僧侶のためにご寄贈下さい。特に北アメリカで現在、梅花講法具が不足しています。各ご寺院で使われていない梅花講法具がございましたら、是非とも、ご寄贈をお願いいたします。

「威儀即仏法」を説く曹洞宗の仏法は、正式な法衣・法具と共に師匠から弟子へと伝えられています。また、国際布教師の努力によって、海外の檀信徒・僧侶にも仏法は伝えられています。しかし正式な法衣・法具は、海外で得度する僧侶の増加に伴い、不足が目立ってきました。

曹洞宗の仏法を海外僧侶に正しく伝えるため、各ご寺院で使われていない法衣・法具がありましたら、是非とも、ご寄贈いただきたくお願いいたします。

連絡先：S Z I事務局 貞昌院（亀野）

〒233-0012 神奈川県横浜市港南区上永谷5-1-3

TEL 070-5551-8852

寄付者・会費納入者名簿 2005年9月20日まで

◆助成金

大本山永平寺様 大本山總持寺様

◆S Z I会費納入者

新規会員並びにご継続ありがとうございます。
(敬称略・順不同)

千葉市 森田英仁
神奈川県中井町 珠泉院
愛知専門尼僧堂 青山俊董

※このほか、各方面より仏具・法衣をお寄せいただき有難うございました。
南米総監部・ヨーロッパ総監部を中心に寄贈させていただきました。

動 静 報 告

8月21日 会報発送作業 (貞昌院)
9月2日 ゆめ観音準備 (大船観音)
9月3日 ゆめ観音アジアフェスティバル (大船観音)
9月11日～13日 世界宗教者会議 (フランス・リヨン)
11月30日 役員会・編集会議 (東京)
12月4日 役員会
2月28日 総会講演会(予定) 講師 町田宗鳳先生

なお、ゆめ観音アジアフェスティバルに寄せられました浄財268,800円を、神奈川県国際交流協会へ、民際基金として寄付させていただきました。

また、インターネットにて随時役員会を開催しています。

S Z I ホームページ運営中！

S Z Iでは、活動報告の他、皆様との交流の場を設けています。お陰様で日本も含めて世界各国の方々にご覧頂いており、好評もいただいております。

今後より一層、情報の共有を交流の促進のために、これまでのホームページとBBS（掲示板）に加えて、新しく、S Z Iのブログサイトも開設致しました。

<http://www.soto-zen.net/>
<http://www.soto-zen.net/blog/>

ご意見・ご質問等、スタッフ一同お待ち申し上げます。